

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第7集

中寺廢寺跡

平成 21 年度



2010年3月

まんのう町教育委員会



A) B地区第3テラス 遺構検出状況 ディテール (南西より)



B) B地区第3テラス拡張部 軒丸瓦54 出土状況 (南より)

序 文

まんのう町教育委員会では、平成16年から古代の山林寺院跡である「中寺廃寺跡」の発掘調査を行っております。

平成20年3月28日に、「中寺廃寺跡」は、古代山林寺院として全国的に貴重な遺跡であるとして、国指定史跡となりました。

平成20年度はB地区第1・第2テラスを、平成21年度はB地区第3テラスの調査を実施しました。僧坊跡と考えられる遺構と第2テラスから流れ落ちてきたと思われる遺物が大量に出土し、中には貴重な遺物も含まれています。

古密教の法具である三鈷杵・錫杖などが同じ場所から出土するのは全国でも大変珍しく、栃木県の日光男体山遺跡など数箇所だけです。こうしたことから、「中寺廃寺跡」は奈良時代から四国の古密教の聖地として栄えていたと思われます。

また、「中寺廃寺跡」は国家が関係していたと考えられていましたが、役人がベルトに付けていた石帯が見つかったことから、役人の往来があったと思われ、国家との関係も非常に強かったことが分かります。

平成21年度は、B地区第3テラスの発掘調査を実施するとともに、史跡中寺廃寺跡整備委員会の丹羽佑一委員長様をはじめ委員の皆様方のご指導を得ながら、「古代讃岐の神秘的な時空間体験」という理念の下、自然環境と調和した整備計画を検討しており、この整備計画に基づき平成22年度から史跡内の本格的な整備を実施する予定です。

さて、このたび多くの方々のご高配とご尽力により、「中寺廃寺跡」の調査報告書第7集を発刊する運びとなりました。本報告書が、古代山林仏教の研究資料として広く活用されますとともに、文化財に対する理解と関心が一層深められることになれば幸いです。

最後になりましたが、本発掘調査に格別のご指導とご協力をいただいております関係の皆様方に心から深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。序文に代えさせていただきます。

平成22年3月

まんのう町教育委員会

教育長 北山正道

例 言

1. 本報告書は、まんのう町教育委員会が、文化庁と香川県の文化財補助金を受けて平成21年度国庫補助事業として実施した、香川県仲多度郡まんのう町造田3469-2他に所在する中寺庵寺跡の報告を収録した。
2. 発掘調査及び報告書の作成はまんのう町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び報告書の作成にあたって、以下の方々のご教示、また関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
上原真人、片桐孝浩、鈴木信男、関根俊一、内藤 栄、丹羽佑一、平澤 毅、森 格也、森下英治、山岸常人、渡部明夫
香川県教育委員会生涯学習・文化財課、香川県埋蔵文化財センター、まんのう町文化財保護協会
4. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標第Ⅳ系の北であり、標高は東京湾平均海水位(T.P.)を基準としている。
また、遺構は下記の略号により表示している。
SB…掘立柱建物跡 SD…溝跡 SP…柱穴跡
5. 挿図の一部に国土地理院国土基本図(1/5,000)を複製した琴南町全図(承認番号四複第238号)及び、国土地理院地形図「内田」(1/25,000)を使用した。
6. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1994年度版』による。

目 次

題 字 金澤 正親氏

表紙写真 中寺廃寺跡遠景（南東より）

1. 立地と環境	1
2. 調査の経緯と経過	1
3. 周知と活用	5
4. 調査の成果	6
(1) 遺 構	6
①A地区第12テラス	6
②B地区第3テラス	10
(2) 遺 物	15
①B地区第2・第3テラス西半間斜面出土遺物	15
②B地区第3テラス出土遺物	20
(3) まとめ	25

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 平坦地分布図	3
第3図 A地区全体図	7
第4図 A地区第12テラス検出状況平面図	8
第5図 A地区第12テラス土層断面図	9
第6図 B地区第1～第3テラス平・断面図	11
第7図 B地区第3テラス平面図	13
第8図 B地区第2・第3テラス西半間斜面出土遺物実測図	15
第9図 B地区第2・第3テラス西半間斜面出土遺物実測図	17
第10図 B地区第3テラス出土遺物実測図	19
第11図 B地区第3テラス出土遺物実測図	21
第12図 B地区第3テラス出土遺物実測図	23
第13図 B地区第3テラス出土銅製品実測図	24

表 目 次

第1表	土器観察表	26
第2表	石製品観察表	32
第3表	金属製品観察表	32

写 真 図 版 目 次

<p>図版1 A) B地区第3テラス遺構検出状況ディ テール(南西より)</p> <p>B) B地区第3テラス拡張部軒丸瓦54出 土状況(南より)</p> <p>図版2 A) 中寺廃寺跡全景(南東より)</p> <p>B) A地区第12テラス遺構検出状況全景 (南より)</p> <p>図版3 A) A地区第12テラス遺構検出状況ディ テール(北より)</p> <p>B) A地区第12テラス西壁土層断面 (南東より)</p> <p>図版4 A) A地区第12テラス南壁土層断面 (北東より)</p> <p>B) A地区第12テラス南壁土層断面 (北西より)</p> <p>図版5 A) A地区第12テラス拡張部検出状況全 景(南より)</p> <p>B) A地区第12テラス拡張部検出状況全 景(北東より)</p> <p>図版6 A) B地区第1テラス礎石建物跡より大 川山を望む</p> <p>B) B地区第3テラス遺構検出状況全景 (北東より)</p> <p>図版7 A) B地区第3テラス遺構検出状況全景 (南東より)</p> <p>B) B地区第3テラスSD07完掘状況 (西より)</p> <p>図版8 A) B地区第3テラス掘立柱建物跡北西 部分検出状況(南西より)</p> <p>B) B地区第3テラス掘立柱建物跡南西 部分検出状況(南西より)</p> <p>図版9 A) B地区第3テラス掘立柱建物跡南東 部分検出状況(南西より)</p>	<p>B) B地区第3テラス拡張部南西部遺構 検出状況全景(南より)</p> <p>図版10 A) B地区第3テラス拡張部北西部遺構 検出状況全景(南より)</p> <p>B) B地区第3テラス拡張部東部遺構検 出状況全景(南より)</p> <p>図版11 A) 第8図B地区第2・第3テラス西半 間斜面出土遺物(1~12)外面</p> <p>B) 第8図B地区第2・第3テラス西半 間斜面出土遺物(1~12)内面</p> <p>図版12 第9図B地区第2・第3テラス西半間斜 面出土遺物(13~55)外面</p> <p>図版13 第9図B地区第2・第3テラス西半間斜 面出土遺物(13~55)内面</p> <p>図版14 第10図B地区第2・第3テラス西半間斜 面出土遺物(56~112)外面</p> <p>図版15 第10図B地区第2・第3テラス西半間斜 面出土遺物(56~112)内面</p> <p>図版16 A) 第11図B地区第3テラス出土遺物 (113~148)外面</p> <p>B) 第11図B地区第3テラス出土遺物 (113~148)内面</p> <p>図版17 第12図B地区第3テラス出土遺物 (149~188)外面</p> <p>図版18 第12図B地区第3テラス出土遺物 (149~188)内面</p> <p>図版19 B地区第2・第3テラス西半間斜面;第 3テラス出土遺物(5・52・98・99・ 100・101・165・182)</p> <p>図版20 石帯37</p> <p>図版21 軒丸瓦54</p> <p>図版22 錫杖189・190</p> <p>図版23 三鈷杆191</p>
--	---

1. 立地と環境

中寺廃寺跡が所在するまんのう町は、平成18年3月20日に香川県仲多度郡南部の3町（琴南町、満濃町、仲南町）が合併して誕生した町である。香川県中部（中讃）に位置し、東は綾川町・高松市、西は三豊市、北は丸亀市・善通寺市・琴平町、南は徳島県美馬市・三好市・東みよし町に接している。町の面積は194.33km²、人口は約2万人である。町の南部及び南西部には、標高1,000mを超える竜王山（1059.9m）、大川山（1042.9m）を主峰とする讃岐山脈が連なり、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が北流している。土器川を溯り、讃岐山脈の分水嶺となる三頭峠まで登り詰めると、切り立つように急峻な眼下に、東に向けて滔々と流れる吉野川を望み、対岸には剣山を擁する四国山地の山並が続く。

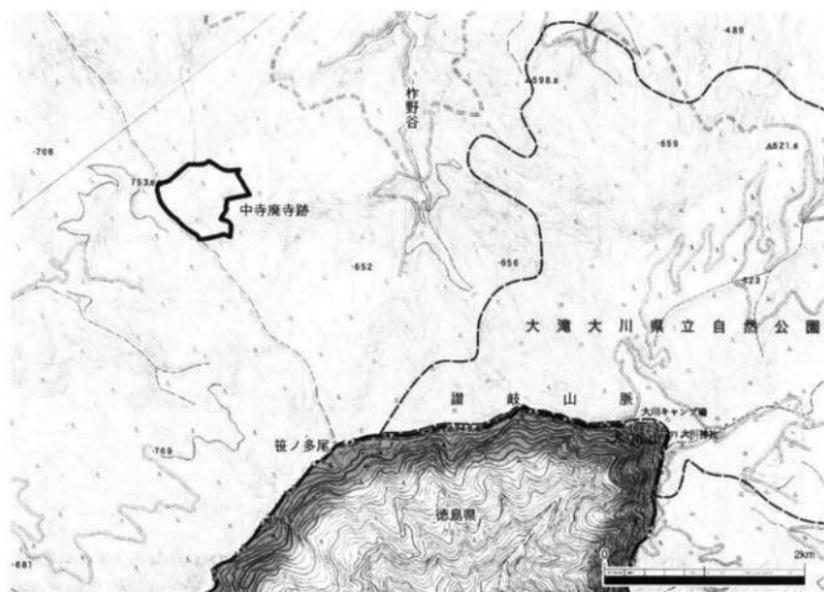
まんのう町には、古くから讃岐・阿波間を結ぶ峠越えの道が数多く通っている。こういった峠越えの道は先史時代よりあったと考えられ、これらの道が古代には官道として、中世には修験道者の道や軍用道として、近世には金毘羅街道として整えられ、讃岐山脈を挟む南北地域間の交流に利用されてきた。中でも三頭峠は、金毘羅五街道の内の一本、阿波街道であり近代まで通行量の多い道であった。まんのう町では現在、猪ノ鼻トンネル・三頭トンネルが香川・徳島間の主要な往還となっている。

史跡中寺廃寺跡は、香川県と徳島県を分かつ讃岐山脈第2の主峰、大川山の香川側山間に位置する。大川山頂より西北西約2.5km、標高約700mの地点に、小尾根から東南東へ開けた谷があり、この谷を囲むように東西400m、南北500mの範囲に分布するテラスが史跡中寺廃寺跡である。テラス群は分布状況から、標高が最も高く谷部に位置するA地区、谷の北側に位置するB地区、B地区と谷を挟んで向かい合うC地区の3地区に大きく分けられる。史跡指定面積は187,713.16㎡である。これら3地区は、現在、樹木などが生い茂り見通しが悪いが、谷を隔ててお互いを見通すことが可能である。尾根上のテラスからは、ほぼ香川県全域を見渡すことができる。山腹のテラスの視界は、尾根に遮られるため遠望することはできないが、B地区南東方向の視界は開けており、古くから信仰されてきた大川山を望むことができる。

現在、中寺廃寺跡は大川山麓の集落の中通、江畑、杵野から入る。中通からは大川神社参拝道を通る。大川山頂や途中の讃岐山脈尾根筋では、北には日本最大の灌漑用ため池である満濃池をはじめとするため池群が潤す讃岐平野を、南には四国山地の雄大な広がり一望できる。江畑、杵野からの道は、古くから大川神社参拝道、金毘羅参拝道として、また地元住民の生活道として炭焼き、林業に利用されてきた。これらの道は麓では前述の街道へと至り、奥では峠越えの道へと至る。

2. 調査の経緯と経過

近年、調査地付近に「中寺」^{のなか}「信ヶ原」^{のぶ}「鐘が窪」^{かねがぼ}「松地谷」^{まつちがに}といった寺院に関する地名が存在



第1図 遺跡位置図

すること、寛政11（1799）年に記された『讀岐廻遊記』中に「中寺」の表記があること、近隣集落には大川七坊と呼ばれる寺院が山中に存在したという伝承が残っていることから、寺院の存在が示唆されてきた。しかし、寺院の詳細が記された文献は未確認であり、中寺は長らく幻の寺院であった。

昭和56年度

中寺廃寺跡付近の分布調査を実施し、現在のA地区（第2図参照）付近において数箇所の平坦地を発見した。

昭和59年度

ボーリング棒による調査を実施し、A地区第2テラスで礎石を確認した。またA地区第3テラスにおいては試掘調査により塔跡を確認した。塔心礎石の下部からは地鎮・鎮壇具と想定される10世紀前半の遺物が出土し、10世紀前半に塔が建立されたことが分かった。

平成15年度

字中寺全域の詳細分布調査を行い、約1,000mの範囲に遺跡が展開していることが判明し、大きく4つの地区に分け、それぞれをA～D地区とした。

平成16年度

中寺廃寺跡調査・整備委員会を組織し、長期計画に基づき本格的な調査を開始した。平成16年度はA地区第2・第3テラスにおいて発掘調査を実施し、仏堂跡・塔跡を確認した。この仏堂と塔は計画的に配置された中枢伽藍であり、A地区は中寺の中心的地域であったと考えられる。また、文献調査から19世紀前半には寺がすでに名称不明の状態であり、現在のD地区の位置に寺跡があると伝承されていたことが判明した。

平成17年度

B地区において発掘調査を実施し、仏堂もしくは割拝殿と考えられる礎石建物跡・僧坊跡を確認した。僧坊跡より西播磨産須恵器多口瓶片、僧坊跡に伴う排水溝より越州窯系青磁碗片が出土したことから、中寺はこれらの貴重品を取り寄せることのできる有力な寺院であったと考えられる。

平成18年度

C地区において発掘調査を実施し、石組遺構を確認した。石組遺構は平安時代の石塔であると思われ、平安時代に記された仏教行事に関する史料『三宝絵詞』に、平安時代中頃には石を積んで石塔とする行為が一般の民衆に広がっていたことが記されていることから、祭祀的な意味合いの強い地区であると考えられる。

平成19年度

A地区第4テラスにおいて発掘調査を実施し、大炊屋跡を確認した。大炊屋跡では、築窯跡を検出し、多量の食器・調理具類が出土している。平成20年3月、国指定史跡となった。

平成20年度

B地区第1・第2テラスにおいて発掘調査を実施し、第1テラスでは礎石建物跡に付随する礎石据付掘方跡、溝跡を、第2テラスではテラス中央に南北に走る排水溝を挟み、東西にそれぞれ1棟ずつ配された僧坊跡を確認した。流土層中より佐波理加盤の可能性がある金属器片が出土した。

本年度

現地作業は4月20日から12月8日まで、A地区第12テラス史跡指定範囲外部分、B地区第3テラス西半、第3テラス西半～第2テラス西半間斜面において実施した。

A地区第12テラスについては、「史跡中寺廃寺跡保存整備基本計画」に基づき、当テラスが休憩施設の建設予定地になっていることから、下部遺構の確認を目的とした発掘調査を実施した。

B地区第3テラス西半、第3テラス西半～第2テラス西半間斜面については、平成17年度、第3テラス東半の一部は調査済みであるが、今回、テラスの規模、遺構の広がり等を把握するため西半において発掘調査を実施した。

整理作業は発掘調査と並行して行い、発掘調査終了後には報告書編集作業を行った。

3. 周知と活用

中寺廃寺跡の周知と活用を図るため、現地見学、講演会、資料展示を実施した。また、外部団体からの見学・講演依頼に講師派遣を実施している。琴南ふるさと資料館では常設展示を行っている。

活動の様子



8月5日「まんのう出会いキャンプ」現地見学



9月27日「国際交流キャンプ」中寺廃寺跡現地見学



11月1日 琴南地区文化祭



11月22日 まんのう町文化祭

活動実績

4月9日	仲善教育会長炭分會琴南ふるさと資料館見学	20名
8月5日	まんのう町長尾会館主催「まんのう出会いキャンプ」中寺廃寺跡現地見学	40名
8月6日	まんのう町健康増進課主催中寺廃寺跡についての講演会	20名
9月27日	まんのう町「国際交流キャンプ」中寺廃寺跡現地見学	10名
10月31日・11月1日	琴南地区文化祭にて琴南ふるさと資料館開放	
11月3日	香川県環境森林部みどり保全課主催 「県立自然公園大川山に登ってみよう！」中寺廃寺跡現地見学	50名
11月21・22日	まんのう町文化祭にて展示	

4. 調査の成果

(1) 遺構

本年度の発掘調査はA地区第12テラス史跡指定範囲外部分、B地区第3テラス西半及び、第3テラス西半から第2テラス西半にかけての斜面において実施した。

A地区は、史跡中寺廃寺跡の中央部、標高約753m～680mに位置し、南東の三角点からの南東側面に分布する全12か所のテラス群で構成されている。テラスは、尾根の頂上に位置するテラスを除けば、全てが尾根を背に、谷に向かって開けた形で広がる。第1テラスで菜園場跡、第2テラスで仏堂跡、第3テラスで塔跡、第4テラスで大炊屋跡を確認している。

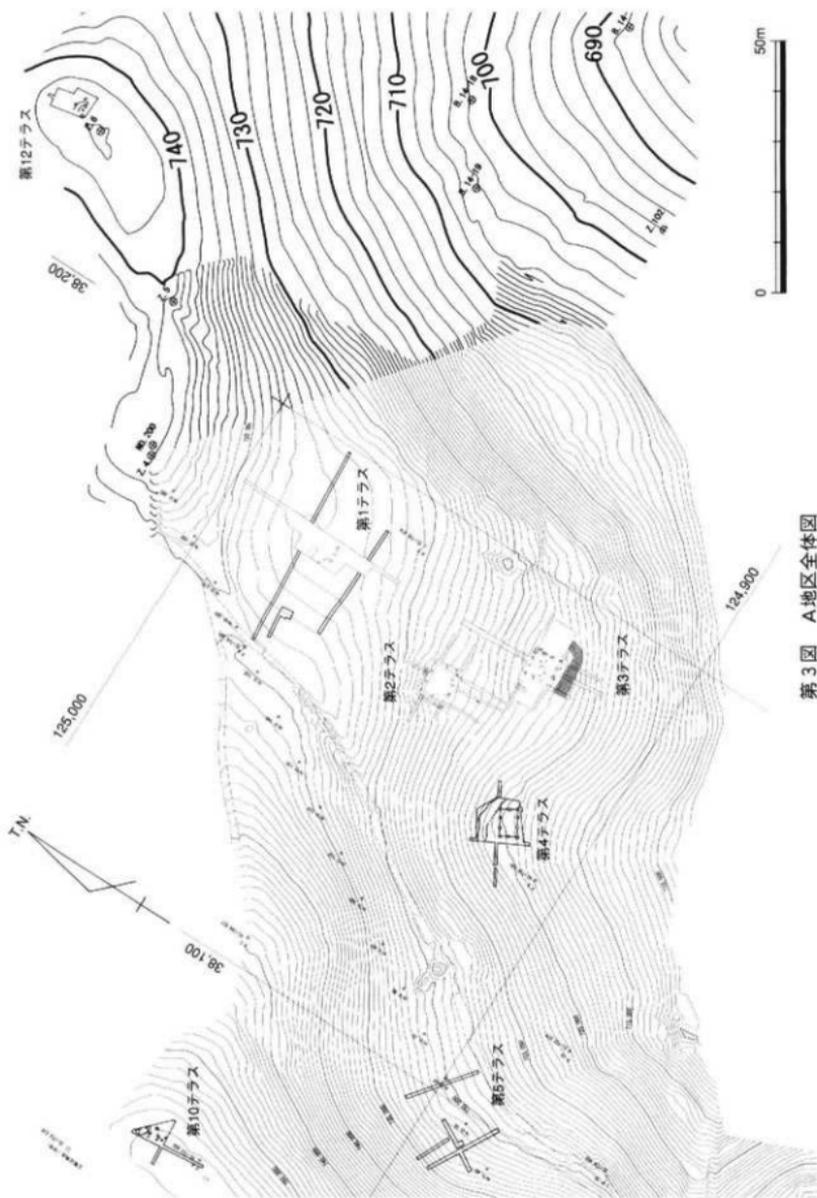
A地区第12テラスでは、史跡指定範囲境界より北の、テラスからやや斜面にかかる範囲を調査し、柱穴跡及び溝跡を検出した。

B地区は、史跡中寺廃寺跡の北東部、標高約689.0mに位置し、第1～第3テラスが南西方向へ突出した小尾根の先端付近に展開する、全5か所のテラス群で構成されている。テラスの周囲は概ね急斜面であるが、第1テラスの北東部と北西部は緩やかな尾根が続いている。第1・第2テラス間の比高差は約4m、第2・第3テラス間の比高差も約4mである。第1テラスで仏堂もしくは割拝殿の可能性がある礎石建物跡、第2テラスで僧坊跡を確認している。

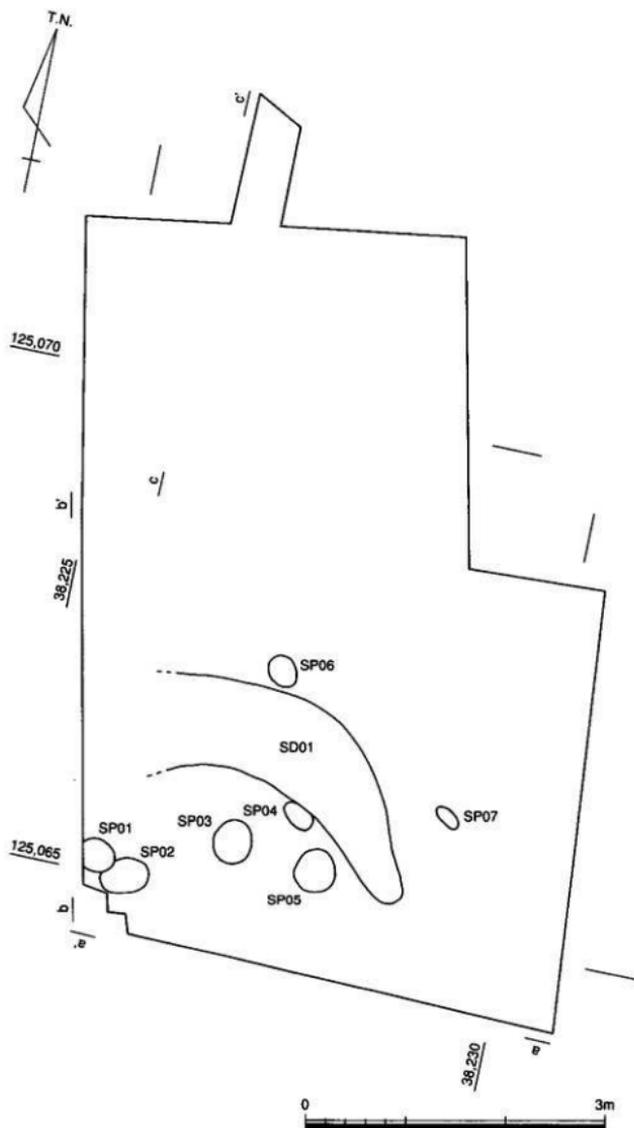
B地区第3テラス西半及び、第3テラス西半から第2テラス西半にかけての斜面では、掘立柱建物跡、柱穴跡、溝跡を検出した。

① A地区第12テラス

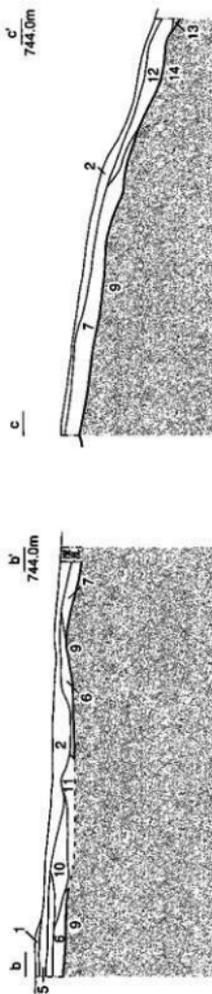
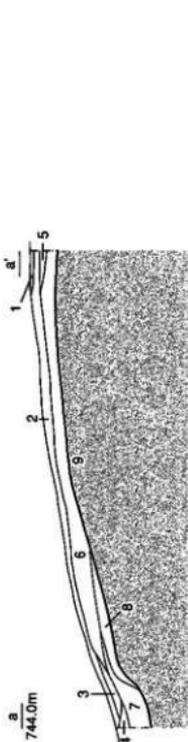
A地区第12テラスは、南東に位置する第10テラス三角点（標高753.65m）から、北東方向へと連なる小尾根の先端、標高約743mに南北に細長く広がる。中寺廃寺跡において最も北に位置し、第10テラス三角点に次ぐ第2のピークである。江畑道より向かった際、最初に到達するテラスである。テラスの展望は史跡範囲中最良で、北から東にかけては東讃のほぼすべてを、東から南に



第3図 A地区全体図



第4図 A地区第12テラス 検出状況平面図



- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 黄壤土 | 8 明褐色粘質土 (白色劣化石含む) |
| 2 黄褐色細砂質土 | 9 明黄褐色細砂質土 (白色劣化石多く含む) |
| 3 (におい) 黄褐色粘質土 (黄少し含む) | 10 黄灰色粘砂質土 (黄多く含む) |
| 4 暗赤褐色粘質土 (黄・小石含む) | 11 暗黄褐色粘質土 (腐乱) |
| 5 黄褐色粘砂質土 (黄少し含む) | 12 黄褐色粘砂質土 |
| 6 黄褐色粘砂質土 | 13 明黄褐色粘質土 (白色劣化石大量に含む) |
| 7 黄褐色粘砂質土 (白色劣化石含む・小石少し含む) | 14 白色劣化石 (礫) |



第5図 A地区第12テラス 土層断面図

かけては大川山の全景を捉えることができる。史跡指定範囲境界が、南北から東西へと続く尾根上に走り、テラスの南東部分が史跡指定範囲となっている。

本年度の調査では、「史跡中寺廃寺跡保存整備基本計画」によって、平成25年度に休憩施設建設が予定されている、史跡指定範囲外箇所の遺構存否を確認するため発掘調査を実施した。

史跡指定範囲境界より北へ4.5m×東西5.4mの範囲を発掘調査した結果、南半で遺構、北半で地山である岩盤を検出した。そこで遺構検出部分を避け、予定箇所を北半の地山岩盤部分へ移動させることとなり、岩盤の広がりを確認するため南北4.2m・幅0.5mのトレンチを掘削後、トレンチの長辺両側で東西3.8m×南北3.4mの拡張掘削を行った。

遺構面は現地地表下約15～35cmで検出している。遺構面を形成する地山は白色劣化石を多く含む明黄褐色細砂質土で、調査区北半から北に進むにつれ礫を多く含む橙色細砂質土から岩盤へと変化する。地山の上では堆積層が1～4層確認できる。地山は遺構を検出した範囲をピークに北-北東-東へと傾斜している。調査区南半で溝跡1条（SD01）、柱穴跡7基（SP01～07）を検出した。遺構内部は掘削していない。

SD01は標高743.51～743.36m、流路方向は西-東-南東、最大幅1.0m、検出長3.2mを測る。西端は樹木攪乱により検出不能で、南東端はやや傾斜面にかかっている。

SP01～07は標高743.58～743.03mで検出した。直径25～50cmで、いずれも概ね円形～楕円形を呈し、柱痕は認められない。

SP01～05については掘立柱建物を構成する柱穴の可能性はある。テラスの平面形は東西が狭く、南北に長い。西への広がりは調査区西辺より2～2.5m程度で、テラスが東へ傾斜する手前に存在するSP03～05が北東隅柱穴と考え、東西に梁間1間ないし2間、南北に桁行が延びる掘立柱建物であった可能性がある。なお、本年度の調査区以南、史跡指定範囲内については未調査であるため、掘立柱建物跡の存否・詳細についての調査は今後の課題である。

②B地区第3テラス

本年度の調査は、平成17年度に一部実施したテラス東半の調査を補足するために実施した。

平成17年度に調査した第1～第3テラスを縦断するトレンチ（F～F'）の西辺に沿って、第2・第3テラス間斜面部分約2mからテラスを通り第3テラス南斜面まで約12m×西へ約9m（北辺）～約5.5m（南辺）の範囲を発掘調査したところ、調査区北西隅流土層より三鈎片191が出土したことから、調査区北西辺より西へ2m×北へ2mの拡張掘削を行った。拡張部流土層より、錫杖片189・190、軒丸瓦片54、石帯片37が出土したことから、更に北～東側で総計東西11.2m×南北0.7～1.9mの拡張掘削を行った。

平坦地（テラス）の造成形態については東半部分と同じである（「中寺廃寺跡」平成17年度P18参照）。第3テラス西半は、北部山側より、傾斜に直交する形で1段造成し溝（SD07）を配置、

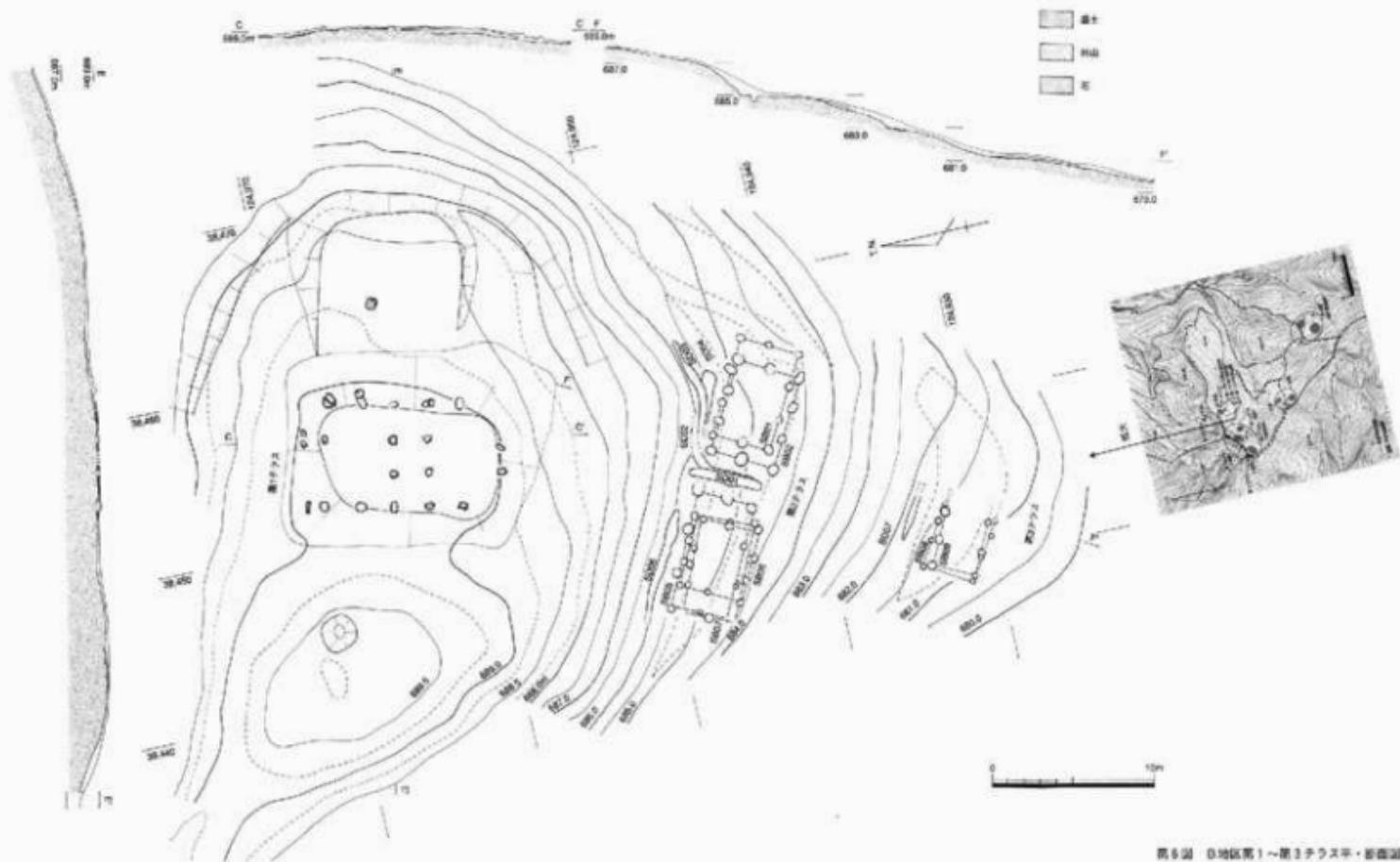
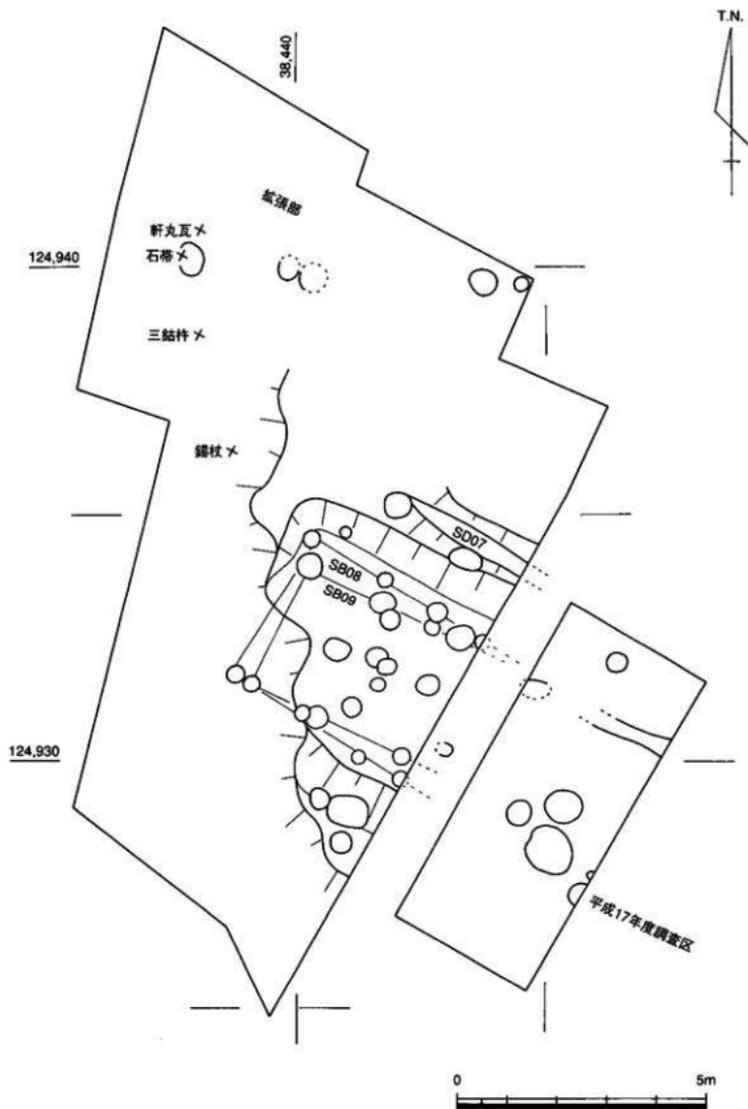


图6图 0地区第1~第3アラス平・新編圖



第7図 B地区第3テラス 平面図

その南に1段下がり広いテラス、その南に1段下がり極狭いテラスが形成されている。調査区北西部は広いテラス西辺に帯状の高まりを残した後、西へと急激に傾斜している。

遺構面は現地表下約15～39cmで検出している。遺構面を形成する地山は灰白色劣化石を多く含む浅黄橙色粘質土で、地山直上に盛土が確認できる（「中寺廃寺跡」平成17年度P19参照）。遺構面はテラス北に進むにつれ盛土が流失しており、北側では地山上で、南側では盛土上で検出している。第3テラス西半、広いテラス部分の地山・盛土直上には、第2テラスと同じく焼土層が被覆していた（「中寺廃寺跡」平成20年度P13参照）。本年度調査区全体で、掘立柱建物跡2棟（SB08・09）、溝跡1条（SD07）、掘立柱建物跡を構成するものを含む柱穴跡33基を検出している。柱穴跡内部は掘削していない。

SB08

SB08は調査区中央の広いテラス部分、標高約680.74mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間1間×桁行(3)間で、3.23×(3.95)mを測る。構成する柱穴の平面形態は概ね円形を呈し、直径28～43cmで、いずれの柱穴にも柱痕は認められない。建物は東西棟で、北東-南西方向(短軸)は真北から31.5°東をとる。桁行南列は盛土を掘り込んでいることからテラス造成後に建てられたと考えられる。

SB09

SB09は調査区中央の広いテラス部分、標高680.76mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間1間×桁行(2)間で、2.60×(3.3)mを測る。構成する柱穴の平面形態は概ね円形を呈し、直径33～60cmで、いずれの柱穴にも柱痕は認められない。建物は東西棟で、北東-南西方向(短軸)は真北から26.5°東をとり、第2テラスSB05・06と向きを揃える。桁行南列は盛土を掘り込んでいることからテラス造成後に建てられたと考えられる。

SD07

SD07は調査区中央の広いテラス部分北側上段、標高681.52～681.38m(溝上面高)で検出した溝跡である。流路方向は南東-北西(N-58°-W)をとる。規模は最大幅45cm、深さ3.3cm、検出長2.8mを測る。溝内堆積土は1層で、濁灰褐色砂質土（「中寺廃寺跡」平成17年度P19断面図第2層）である。溝跡断面は上部がかなり開く「U」字状を呈している。

SB08桁行と流路方向が平行であることからSB08に伴う溝で、第2テラスからの雨水の排水溝と考えられる。

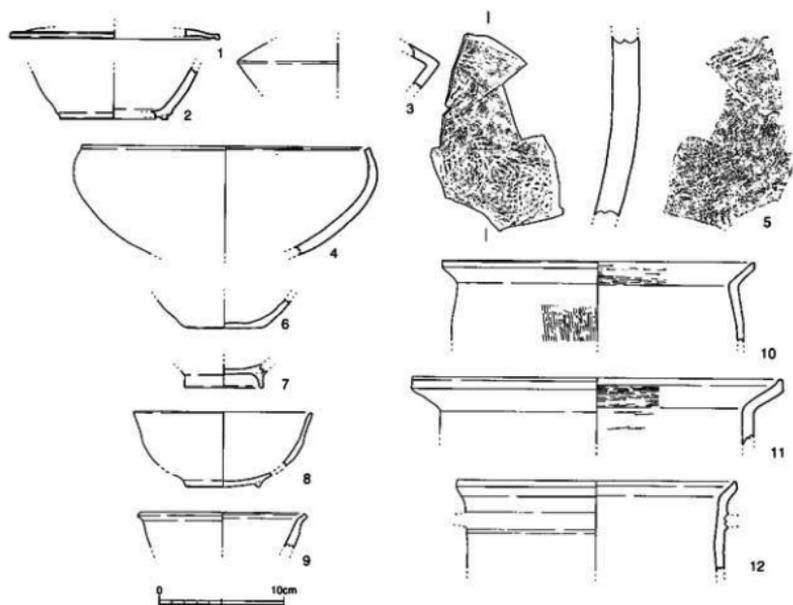
(2) 遺物

本年度の発掘調査では28ℓコンテナに換算して約20箱分、取り上げ点数1111点の遺物が出土した。遺物の種類は須恵器・土師器・黒色土器・土師質土器・石製品・磁器・瓦・銅製品・鉄製品等で、時期は7世紀末～10世紀前半である。出土遺物の中では石帯・越州窯系青磁碗・軒丸瓦・須恵器細頸壺・銅製錫杖・銅製三鈷杵が特異な様相を呈している。

① B地区第2・第3テラス西半間斜面出土遺物

1～55はB地区第2テラスと第3テラス間、第3テラス調査区に続いて上方斜面部に設定した拡張部から出土した遺物である。この拡張部では明確な遺構は無く、土層は腐葉土と流土層から形成されている。出土した遺物のほとんどは第1・第2テラスからの転落した遺物が腐葉土・流土層中に堆積したものと考えられる。

1～12は腐葉土から出土した遺物である。1・2は須恵器高台付坏である。1の坏蓋は器高が低く、口縁部を下方に屈曲させ、端部を外方に摘み出す。2の坏身は底部に断面方形の高台が付き、体部は直線的に外上方に延びるものである。3は須恵器壺の体部で、肩部に明瞭な稜を持ち、

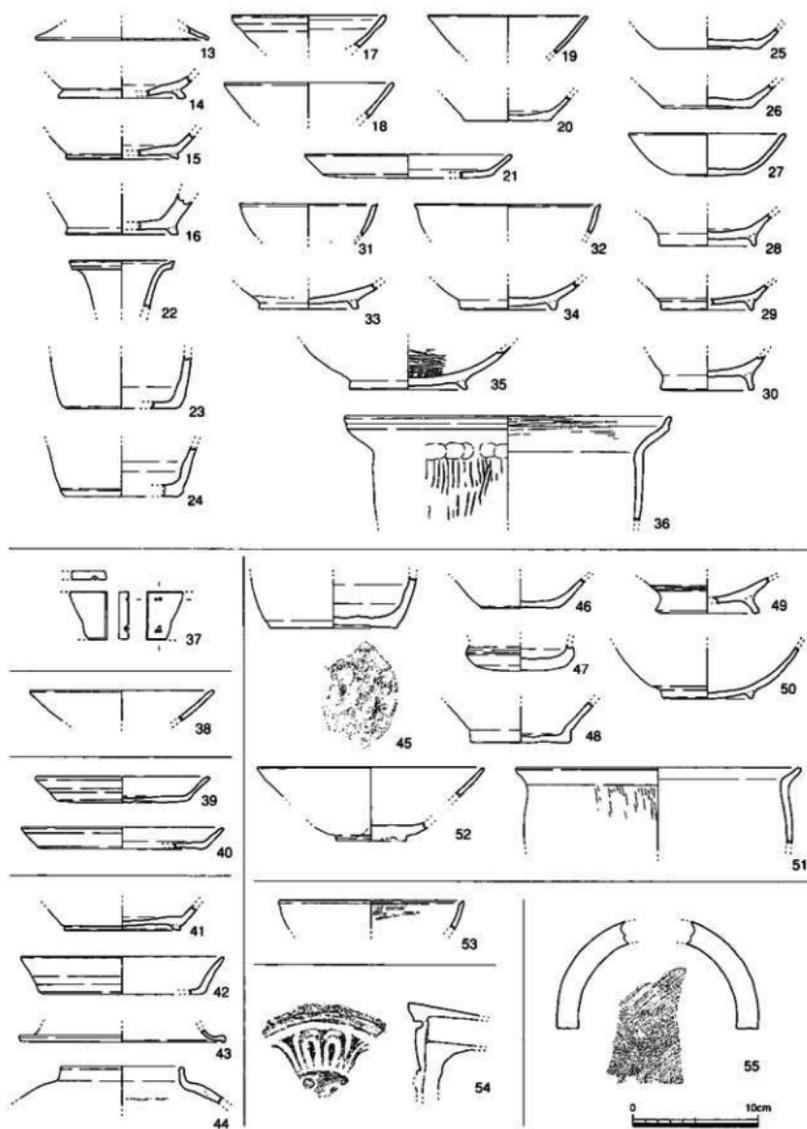


第8図 B地区第2・第3テラス西半間斜面出土 遺物実測図

屈曲する。体部外面の屈曲部から下にはヘラ削りが施されている。4は須恵器鉄鉢で、口縁部が緩やかに内湾し、端部はそのまま終わらせる。5は須恵器硯で、体部が約2cmと厚く、外面に平行叩き痕、内面に同心円文状の当具痕があることから甕の体部を転用した転用硯である。凹面中央部がかなり磨減し、内面の当具痕が消えており、かなり使用されていたものと思われる。外面には同心円状のヘラ削り痕が認められることから甕の底部に近い部分と考えられる。6は土師器坏で、底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。7は土師器碗で、底部に断面長方形の細身の高台が付く。底部は平底で、底部と体部の境に明瞭な稜を持つタイプである。8は内面のみ黒色処理された黒色土器A類碗で、底部に断面三角形の小さい高台が付き、体部は内湾しながら口縁部に至るものである。9は土師器小鉢である。口縁部を外方に屈曲させ、端部を上方に摘み上げる。10～12は土師質の長胴甕である。10は体部がやや膨らむもので、11・12は体部が直線的に延びるものである。口縁部は外方に屈曲し、端部は上方に摘み上げる。12は外面口縁部下に突帯を持つものである。

拡張部腐葉土から出土した遺物は須恵器・土師器を中心として、時期もやや時間差が認められ、1・2の須恵器高台付坏が8世紀後半～9世紀初頭で最も古く、6・8の土師器坏・黒色土器が10世紀前半で最も新しい。

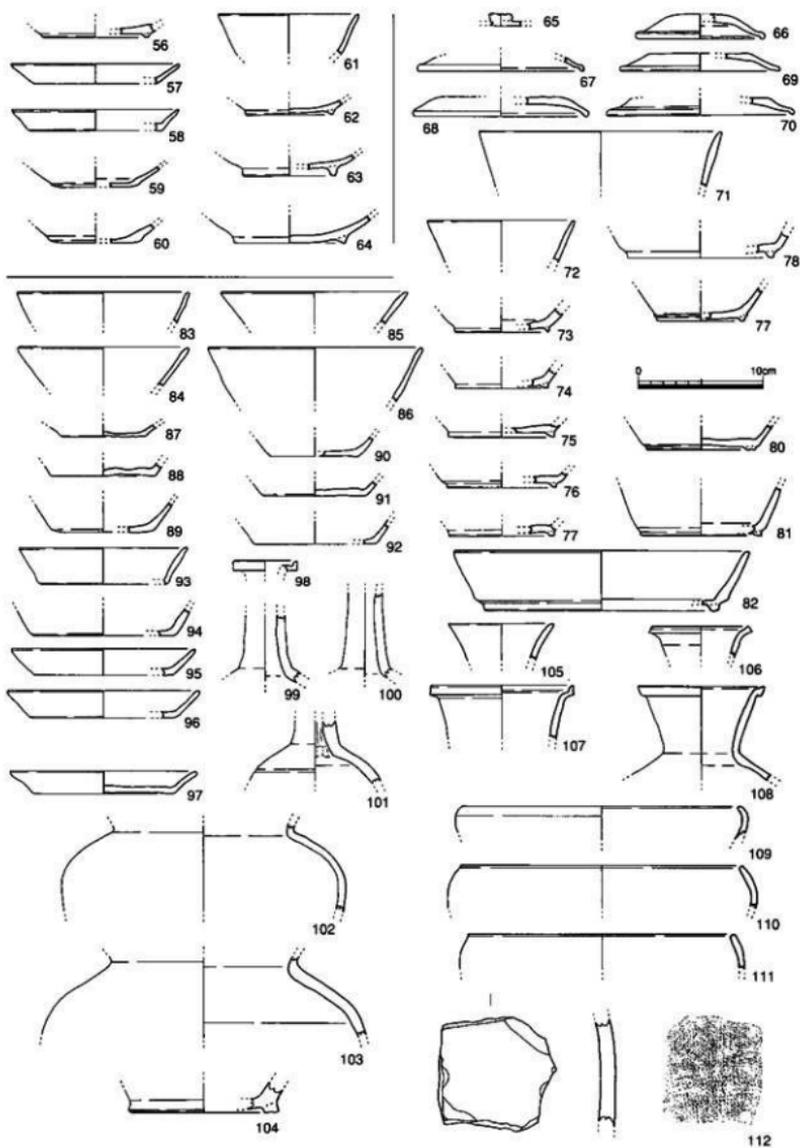
13～55は流土層から出土した遺物で、13～36は流土層全体、37は流土層上位、38は流土層中位、39・40は流土層下位、41～44は流土層第9層（流土層中位）、45～52は流土層第2層（流土層上位）、53は流土層第10層（流土層下位）、54は流土層第7層（流土層下位）、55は第2テラスの流土層から出土した遺物である。13～15は須恵器高台付坏である。13の坏蓋は器高が高く、口縁端部はあまり屈曲せず、内面に凹線状の窪みを持つ。14は坏身で、底部に外方に踏ん張った高台を持ち、底部と体部の境がやや丸みを持ち、7世紀末～8世紀前半の要素を持つものである。16は須恵器壺で、底部に高台を持つ。17～20は須恵器坏で、底部はヘラ切り、体部は直線的に外上方に延びるものである。17はやや軟質焼成、19・20は内外面に火褥痕が認められる。21は軟質焼成の須恵器皿で、口径16.6cmとやや大振りのものである。22～24は須恵器壺で、底部が平底を呈し、体部はやや内湾気味に上方に延びる。頸部は直線的に外上方に延び、上部で外反し、口縁端部を上方に屈曲させるものである。25～27は土師器坏で、底部はヘラ切り、体部は直線的に外上方に延びるものとやや内湾気味のものもある。28～30は土師器碗で、底部は平底、体部は直線的に外上方に延びるものである。高台は底部と体部の境に付き、9世紀後半に出現する土師器碗の特徴を持つ。31～35は内面のみ黒色処理された黒色土器A類碗で、31・32は口縁端部内面に沈線を持つ。31は口径が11.0cmと小振りのもので、35はやや大振りの黒色土器碗で体部内面に細かいヘラ磨きが施されている。36は土師質長胴甕で、口縁部を外方に屈曲させ、口縁端部を上方に摘み上げる。口縁部内面と体部外面にかなり粗い刷毛目が施されている。37は斑爛岩製の石帯である。一部欠損しているが、本来は正方形の巡方と考えられ、一辺3.9cm、厚さ0.75cmを測る。上下四



第9図 B地区第2・第3テラス西半間斜面出土 遺物実測図

辺の角はわずかに面取りされ、丁寧に作られている。透し穴は無く、裏面に2ヶ所1対の潜穴を持ち、上方の潜穴は上辺に対して平行に、下方の潜穴は側面に対して平行に施されている。ただし下方の潜穴は下辺に対して平行にあったものを側面に対して平行に開けおした痕跡が確認できることから、本来は全ての潜穴が上辺・下辺に対して平行に施されていたと考えられる。亀田氏の分類によるとF1にあたる。鈔が金属製品から石製品に変わるのが8世紀末頃であることから、37は8世紀末頃と考えられる。38は土師器坏で、体部は直線的に外上方に延びる。39・40は須恵器皿で、底部がヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。口径が14.0cmと16.2cmで、大振りのものと中振りのものである。42は須恵器坏で、底部はヘラ切りされ、体部がやや反気味に延び、器高もやや高く、時期は8世紀後半である。43は須恵器高坏の脚で、緩やかに開き、端部を下方に摘み出す。44は短頸壺で、口縁部は短く上方に延びる。45は須恵器壺の底部で、底部外面は未調整で、下駄痕を持つ。46は土師器坏で、底部はヘラ切りされている。47・48は底部が突出した土師器碗で、47は底部が丸く突出するもので、48は約1.0cm程度の外観高台状に突出する底部を持つ。49は底部に断面長方形の長く、踏ん張った高台を持つ土師器碗である。50は内面のみ黒色処理された黒色土器A類碗である。51は体部がやや丸みを持つ土師質長胴甕である。52は越州窯系青磁碗で、口縁部は平成17年度に出土した口縁部で、今年度は底部が出土した。高台は削り出しで、体部は直線的に外上方に延びるものと思われる。高台を除く全面にやや濁った緑色の透明釉がかけられ、内面見込み部には現存四ヶ所の目跡が確認できる。53は内面のみ黒色処理された黒色土器A類碗である。口縁端部内面に沈線を持つ。54は川原寺系の八葉複弁蓮華紋軒丸瓦である。蓮子を持つ推定直径3.9cmの中房に、中房より盛り上がる八葉複弁を巡らし、複弁間には間弁を持つ。内区より高い周縁は外側を平坦に、内側を内傾させたものである。周縁部と内区は接合できないが、外区の外周の径、中房の外周の径にそれぞれの断面を合わせると実測図面ようになる。断面から瓦当部は最大でも8mmと薄く、その瓦当部に丸瓦を当て、上下に粘土を足し、作られていることが分かる。断面から推定できる丸瓦の厚さは約2.0cmで、同一個体と考えている55の丸瓦の厚さ約1.8cmとほぼ同じであることから、実測図面は妥当と考えられる。丸瓦と上下に足された粘土との接合を十分にさせるために上下の粘土に突帯や切り目を入れているのが確認できる。時期は白鳳期である。55は丸瓦で、内面に布目痕がある。今年度までの発掘調査で出土した瓦の破片数は11点となり、胎土・焼成が類似することから同一個体と考えられる。出土点数が少ないことから当遺跡に使用されていたものとは考えられず、どういう理由で持ち込まれたかは今後の課題で、また時期にも瓦の時期が白鳳期（7世紀末～8世紀初頭）で、当遺跡の時期幅が8世紀後半から11世紀と考えられることから、时期的にも合わないことが指摘できる。

拡張部流土から出土した遺物は須恵器・土師器を中心として、時期もやや時間差が認められ、15の須恵器高台付坏が8世紀後半頃で最も古く、17～20、25～27の須恵器坏、土師器坏が10世紀前半で最も新しいことが分かる。底部と体部の境が明瞭な土師器碗や須恵器皿に中・大振りのも



第10図 B地区第3テラス出土 遺物実測図

のがあることから9世紀後半の時期のものが主流を占めるものと考えられる。14の須恵器高台付坏は7世紀末～8世紀前半と考えられ、54の軒丸瓦とはほぼ同時期であることから、当遺跡外から軒丸瓦1点だけ持ち込まれたものか、他の遺物も同時に持ち込まれたかは不明である。

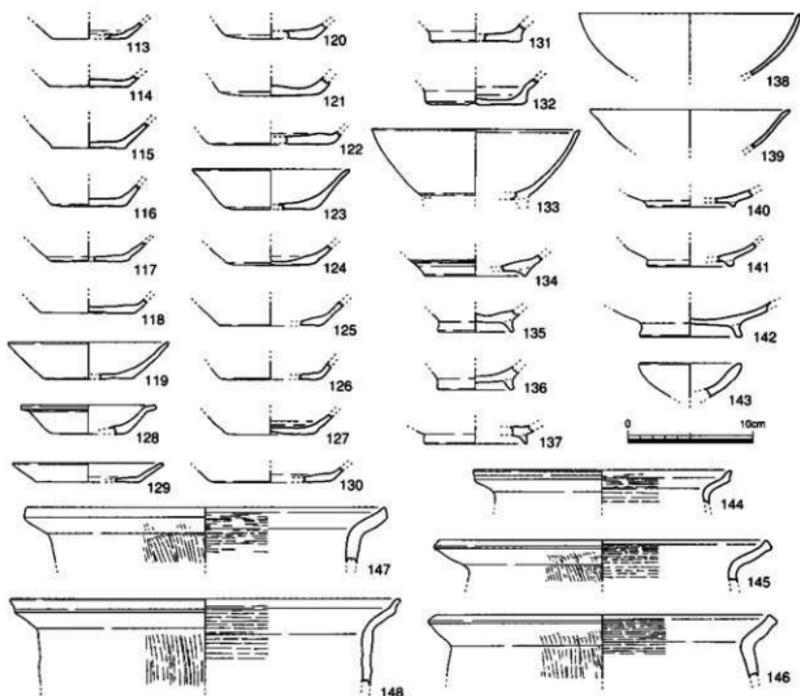
②B地区第3テラス出土遺物

56～191はB地区第3テラスから出土した遺物である。第3テラスでは腐葉土・流土層下が遺構面で、掘立柱建物を2棟検出している。遺構面直上には部分的に焼土層も確認できる。56～64は腐葉土、65～148は流土層上位、149～183・189～191は流土層下位、184～188は焼土層から出土した遺物である。

56は須恵器高台付坏で、底部に断面方形の短い高台が付く。57・58は須恵器皿で、口径13.6cm、13.3cmとやや小振りの物である。59・60は土師器坏で、底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。61は土師器碗である。62～64は内面のみ黒色処理された黒色土器A類碗で、高台の断面が三角形を呈するもの方形のものなどさまざまな形態が認められる。

第3テラス腐葉土から出土した遺物は須恵器・土師器・黒色土器を中心として、時期もやや時間差が認められ、56の須恵器高台付坏が8世紀後半で最も古く、それ以外のものは10世紀前半と考えられる。

65～82は須恵器高台付坏である。65～70は坏蓋で、65は天井部に扁平なつまみが付く。66～68は口縁部から緩やかに天井部になるもので、天井部はヘラ切りされ、口縁端部は短く下方に屈曲させる。69・70は口縁端部から天井部にかけて明瞭な稜線を持ち、平坦な天井部を持つもので、口縁部は短く屈曲し、66～68に比べると口縁端部の屈曲が鈍くなっている。71～82は坏身で、73～75は高台がやや外方に踏ん張るもの、76～81は断面方形の高台が短く付くものがある。体部は直線的に外上方に延びる。82は口径18.7cmと大振りのもので、盤と考えられる。軟質焼成。83～94は須恵器坏で、86は口径17.2cmと大振りのものである。93は器高が3.0cm、口径が13.5cmで、83～86の須恵器坏と比べると特異なもので、時期は8世紀後半と考えられる。95～97は須恵器皿で、口径14.8～15.4cmと中振りのものである。底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。98～101は須恵器細頸壺で、頸部が細く上方に延び、口縁部は外方に屈曲させ、端部は上方に摘み上げる。体部は丸く作られ、底部には高台が付くものと考えられる。102・103は体部がやや大きく、肩の張る須恵器壺である。104は高台付の底部で、壺の底部と考えられる。105～108は須恵器壺で、105は頸部から口縁部と緩やかに開くもので、108は口縁部で少し外方に屈曲させ、口縁端部を上方に短く摘み上げる。107・108は頸部がほぼ直線的に外上方に延び、口縁部を外方に屈曲させ、端部を上方に摘み上げるものである。109～111は須恵器鉄鉢で、口縁部が緩やかに内湾し、109は端部を丸く終わらせるもの、110・111は方形にそのまま終わらせるものである。112は須恵器硯で、外面に格子叩き痕、内面は無文の当具痕を持つ。甕の体部を転用した転用硯



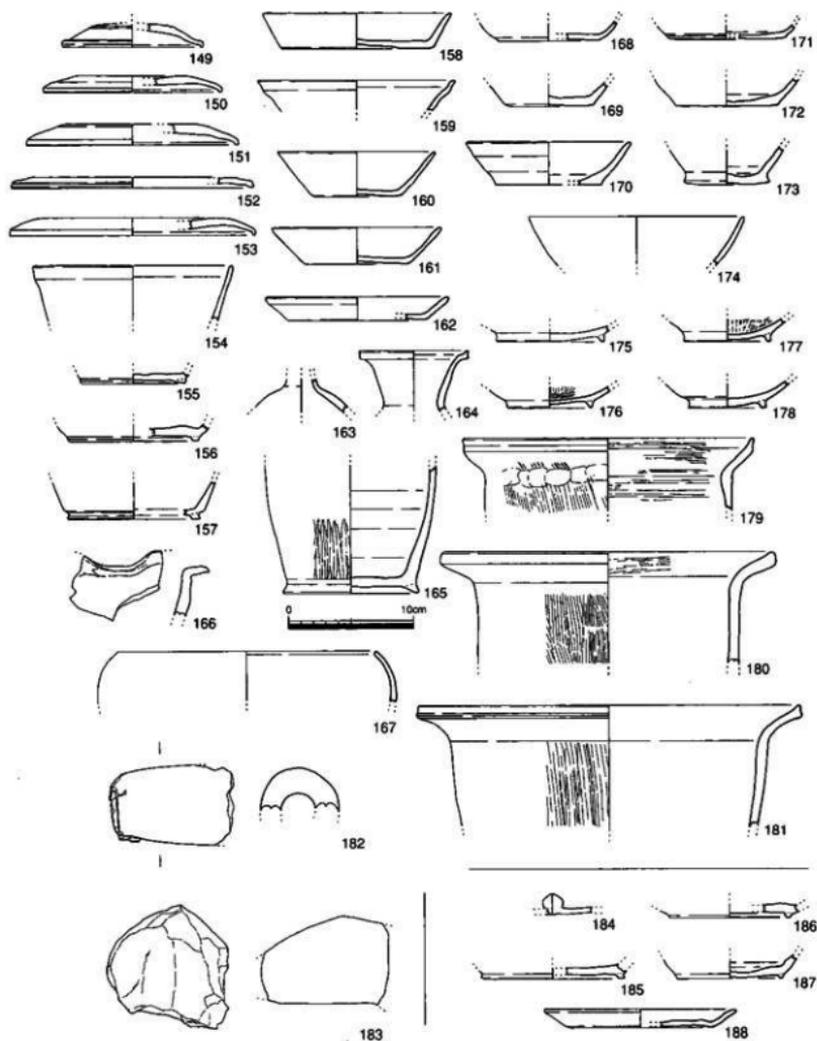
第11図 B地区第3テラス出土 遺物実測図

である。凹面中央部がかなり磨滅している。113～128は土師器杯で、底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。底部と体部の境が丸味を持つものと稜を持つものがある。128は口縁部を外反させるもので、土師器杯の中では特異な形態を持つ。129・130は土師器皿で、129の口径は12.0cmと小振りなものである。131・132は突出した底部を持つ土師器碗である。133～137は土師器碗で、底部は平底でヘラ切りされ、体部はやや内湾しながら直線的に外上方に延びる。138～142は内面のみ黒色処理された黒色土器A類碗である。底部には断面三角形、方形の高台が付き、体部は内湾しながら外上方に延びる。139は口縁端部をやや外反させるものである。143は土師器小杯で、その他の杯・碗と比較するとかなり胎土が粗い。144～148は土師質長胴甕で、144～146は体部がやや丸みを持つもので、これ以外は直線的に延びるものである。145・146は口縁部を方形のまま終わらせ、これ以外は口縁端部を上方に摘み上げている。口縁部内面や体部外面に粗い刷毛目が施されている。

第3テラス流土層上位から出土した遺物は須恵器・土師器・黒色土器を中心として、時期もや

や時間差が認められる。65～82の須恵器高台付坏は坏蓋の形態で、天井部がやや丸みを持つものと平坦面を持つものの2種類が認められ、前者の方が古く8世紀後半、後者は9世紀前半と考えられる。須恵器坏、土師器坏、黒色土器A類碗のほとんどの遺物は、9世紀後半から10世紀前半と考えられる。出土遺物の中では98～101の須恵器細頸壺が特異な様相を呈している。

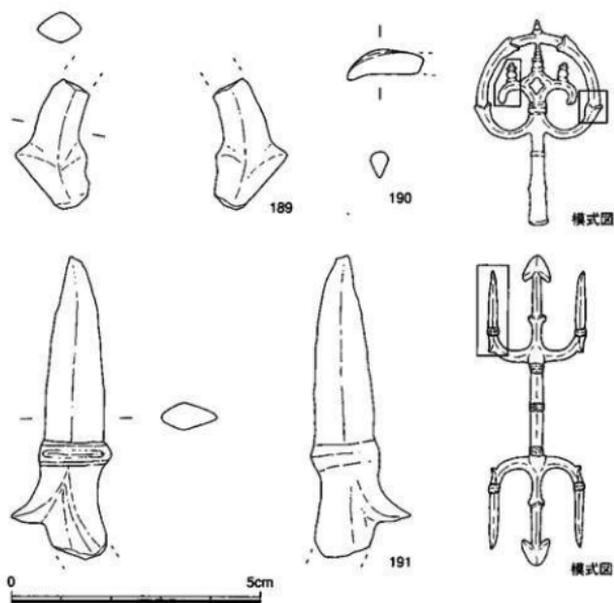
149～157は須恵器高台付坏である。149～153は坏蓋で、149は口径が11.1cmと小振りのもので、やや器高が高く天井部は丸みを持つ。152・153は19.5～19.7cmと口径が大きく、器高は低いもので、8世紀後半と考えられる。154～157は坏身で、底部はヘラ切りされ、断面方形の高台が付く。158～161は須恵器坏で、161は底部がヘラ切り、体部は直線的に外上方に延びるもので、8世紀後半と考えられる。162は須恵器皿で、口径14.6cmの中振りのものである。163は小型の壺で、164は頸部が直線的に外上方に延び、口縁部を外反させ、端部を上方に積み上げる須恵器壺である。165は須恵器壺で、底部に断面長方形で、踏ん張った高台が付き、体部は内湾気味に上方に延びる。体部外面下半には縦方向のヘラ磨きが施され、丁寧に作られている。166は須恵器鉢の注ぎ口の部分である。167は須恵器鉄鉢で、内湾する口縁部から、端部はそのまま方形に終わらせるものである。168～172は土師器坏で、底部はヘラ切り、体部は直線的と内湾気味に外上方に延びるものがある。173は土師器碗で、突出する底部を持つものである。174～178は内面のみ黒色処理した黒色土器A類碗で、177は内面に放射状のヘラ磨きが施されている。179～181は土師質長胴甕で、口縁端部を上方に積み出すものと僅かに積み出すものがある。口縁部内面と体部外面に粗い刷毛目が施されている。182は甕の羽口である。欠損しているが復元すると直径6.3cmを測り、先細りとなっているが、内側孔は一定で、2.7cmを測る。先端部には溶解した鉄製品の付着物が認められ、かなり高温になっていたことが分かる。183は砂岩製の砥石で、上面の2面が磨り面と考えられる。189は銅製品で、現全長2.6cm、幅1.5cm、厚さ0.6cmを測る。全体にやや湾曲し、断面菱形を呈し、現存中央内外に逆刺がある。外側の逆刺は残りがよく、若干反り返り、先端は鋭利に作られている。この銅製品は小片であるが、銅錫杖頭の柄の左右に取り付けた心葉形の輪の一部と考えられる。190は銅製品で、現存長1.5cm、幅0.5cm、厚さ0.35cmを測る。断面は内側を三角形に作られ、背側は丸く、先端は鋭利に作られている。背側の先端から約0.7cmまでは当初の面を残しているが、残りの0.8cmについては歪な形を呈しており、何か剥がれたような状態である。この銅製品も銅錫杖頭の一部と考えられ、189の心葉形の輪が厥手状に巻き返す先端で、背側の歪な部分は、銅錫杖頭の心葉形の輪によくみられる三日月形や瓶などが付いていたものが剥がれた結果と考える。191は銅製品で、現存長6.0cm、幅2.1cm、厚さ0.55cmを測る。全体に直線的ではあるが、下部はやや内湾気味に延びるもので、その屈曲位置に中央部が窪み、「M」状を呈する突帯を巡らす。正面とした面の突帯は明瞭に作られているが、背面はやや雑に作られている。突帯下には外方に逆刺がやや反り返るようになり、先端は鋭利に作られている。突帯から上部は断面菱形を呈し、断面の形態や先端がやや外側に向かって反り返っていることから内側



第12図 B地区第3テラス出土 遺物実測図

が刃部と考えられる。この銅製品は三鈷件の脇鈷と考えられる。これらの銅製品は古密教(雑密)に使用されたものと考えられる。

第3テラス土層下位から出土した遺物は須恵器・土師器・黒色土器を中心として、時期もや



第13図 B地区第3テラス出土 銅製品実測図

や時間差が認められる。149～157の須恵器高台付坏は坏蓋の形態で、天井部がやや丸みを持つものと器高が低く、口径が大きいものがあり、時期は8世紀後半と考えられる。須恵器坏、土師器坏、黒色土器A類碗のほとんどの遺物は10世紀前半と考えられる。出土遺物の中では182の籬の羽口、189・190の銅製の錫杖、191の銅製の三鈷杵が特異な様相を呈している。

184～187は須恵器高台付坏で、184は天井部に宝珠形のつまみが付くものである。188は須恵器皿で、底部へら削り、体部はやや外反しながら外上方に延びる。口径は15.4cmと中振りのものである。

第3テラス焼土層から出土した遺物は須恵器を中心として、時期もやや時間差が認められる。184～187の須恵器高台付坏は8世紀後半と考えられ、188の須恵器皿は9世紀中葉～後半と考えられる。

(3) まとめ

今年度の調査区はB地区の第2テラスから第3テラス間の斜面部と第3テラスを中心に調査し、第3テラスでは掘立柱建物跡2棟を検出した。平成17年度に調査した成果も含めて概観すると、第3テラスでは第2テラスで検出した溝を挟み左右に掘立柱建物が存在するような建物配置ではなく、1棟のみの建物配置であることが分かる。第2・第3テラスで検出した掘立柱建物は、概ね同じ方向を向き、規則的に配置され、それぞれが2～3回建て替えられていることが分かる。

一方遺物から見ると7世紀末～8世紀前半と考えられる軒丸瓦1点や少量の須恵器高台付坏は別として、そのほとんどが8世紀後半～10世紀前半の遺物で、特に8世紀後半と9世紀後半～10世紀前半の遺物が多く出土している。中寺廃寺跡の他の調査区から8世紀後半の遺物がほとんど出土していないことから、B地区が中寺廃寺の中で最初に営まれた地区であることは明らかである。銅錫杖頭や銅三鈷片は大同元年(806)に空海等によって中国から持ち帰った体系化された密教や修法に使用する密教法具とは違い、かなり武器の様相が残るもので、これらは古密教(雑密)の修法に用いるものと考えられ、初原期中寺廃寺跡の性格を考えるのに重要な資料となった。

参考文献

関西大学 考古学研究室開設三十周年記念考古学論叢 亀田博

「鈷帯と石帯—出土鈷・石鈷の研究ノート—」

奈良国立博物館 特別展「古密教—日本密教の胎動—」目録

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第3集「中寺廃寺跡」

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第4集「中寺廃寺跡 平成19年度」

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第3集「中寺廃寺跡 平成20年度」

第1表 土器観察表

館内 整理 番号	調査 番号	四角 番号	種別・器種	出土 状況	出土 地点	法量 (cm)		残存 量	胎土	色澤			調整	備考
						口径	器高			外周	内周	外周		
1	8	11	須恵器・坏	B	坂城部東土層	16.9	—	—	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	外周 N7/灰白	内周 N7/灰白	備考
2	8	11	須恵器・坏	B	坂城部東土層	—	8.6	—	底面1/8 砂粒細砂少	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	外周 7.5Y7/1灰白	内周 7.5Y7/1灰白	高台付
3	8	11	須恵器・坏	B	坂城部東土層	—	—	底面6/8	砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	外周 N5/灰	内周 N6/灰	備考
4	8	11	須恵器・鉄鉢	B	坂城部東土層	23.0	—	—	口縁部1/8 砂粒細砂多	N6/灰	N6/灰	外周 N6/灰	内周 N6/灰	備考
5	8	19	甕用瓶	B	坂城部東土層	15.2	9.9	2.1	体部2/8 砂粒細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/1灰白	外周 2.5Y7/2灰黄	内周 2.5Y7/1灰白	内周に文状の当 り風
6	8	11	土師器・坏	B	坂城部東土層	—	6.2	—	底面5/8 霰母・黒石細砂少、石炭中砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	外周 2.5Y7/2灰黄	内周 2.5Y7/2灰黄	備考
7	8	11	土師器・椀	B	坂城部東土層	—	6.3	—	底面2/8 霰母・黒石細砂少、石炭中砂少	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	外周 2.5Y8/2灰白	内周 2.5Y8/2灰白	備考
8	8	11	土師器・椀	B	坂城部東土層	14.3	5.9	6.15	口縁部1/8 霰母・黒石細砂少、石炭中砂少	10Y R7/4	2.5Y3/1黒褐	外周 10Y R7/4	内周 2.5Y3/1黒褐	備考
9	8	11	土師器・小鉢	B	坂城部東土層	13.0	—	—	口縁部1/8 霰母・黒石細砂少	5Y R5/6明赤褐	2.5Y3/1黒褐	外周 5Y R5/6明赤褐	内周 2.5Y3/1黒褐	備考
10	8	11	土師器・土器・長 胴器	B	坂城部東土層	25.0	—	—	口縁部1/8 霰母・黒石・石炭細砂多	10Y R5/4	7.5Y R6/6	外周 10Y R5/4	内周 7.5Y R6/6	備考
11	8	11	土師器・土器・長 胴器	B	坂城部東土層	25.8	—	—	口縁部1/8 霰母・石炭中砂多	2.5Y7/2灰黄	2.5Y8/2灰白	外周 2.5Y7/2灰黄	内周 2.5Y8/2灰白	備考
12	8	11	土師器・土器・長 胴器	B	坂城部東土層	22.1	—	—	口縁部1/8 霰母・石炭中砂多	2.5Y R5/6明赤 褐	10Y R6/6	外周 2.5Y R5/6明赤 褐	内周 10Y R6/6	備考
13	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	14.0	—	—	口縁部1/8 砂粒細砂少	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	外周 5Y7/1灰白	内周 5Y7/1灰白	備考
14	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	—	10.2	—	底面1/8 砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	外周 N6/灰	内周 N6/灰	高台付
15	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	—	9.0	—	底面1/8 砂粒細砂少	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	外周 2.5Y8/2灰白	内周 2.5Y8/2灰白	高台付
16	9	12.13	須恵器・椀	B	坂城部東土層	—	9.0	—	底面3/8 砂粒細砂多	N7/灰	N6/灰	外周 N7/灰	内周 N6/灰	未調整・備考
17	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	12.4	—	—	口縁部1/8 砂粒細砂少	5Y R8/1灰白	2.5Y8/2灰白	外周 5Y R8/1灰白	内周 2.5Y8/2灰白	備考
18	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	13.6	—	—	口縁部1/8 砂粒細砂少	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	外周 7.5Y7/1灰白	内周 7.5Y7/1灰白	備考
19	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	12.8	—	—	口縁部1/8 砂粒細砂少	N7/灰白	N7/灰白	外周 N7/灰白	内周 N7/灰白	備考
20	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	—	6.9	—	底面7/8 砂粒細砂少	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	外周 5Y7/1灰白	内周 5Y7/1灰白	へう切り・備考
21	9	12.13	須恵器・皿	B	坂城部東土層	16.6	13.6	1.9	口縁部2/8 底面1/8 砂粒細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	外周 2.5Y7/2灰黄	内周 2.5Y7/2灰黄	備考
22	9	12.13	須恵器・椀	B	坂城部東土層	8.4	—	—	口縁部2/8 砂粒細砂少	N4/灰	N5/灰	外周 N4/灰	内周 N5/灰	備考
23	9	12.13	須恵器・椀	B	坂城部東土層	—	9.4	—	底面1/8 砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	外周 N6/灰	内周 N6/灰	未調整・備考
24	9	12.13	須恵器・椀	B	坂城部東土層	—	9.0	—	底面1/8 砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	外周 N5/灰	内周 N6/灰	未調整・備考
25	9	12.13	須恵器・坏	B	坂城部東土層	—	6.0	—	体部2/8 霰母・黒石細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	外周 2.5Y7/2灰黄	内周 2.5Y7/2灰黄	へう切り・備考
26	9	12.13	土師器・坏	B	坂城部東土層	—	7.3	—	底面3/8 霰母・黒石細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	外周 2.5Y7/2灰黄	内周 2.5Y7/2灰黄	備考
27	9	12.13	土師器・坏	B	坂城部東土層	12.6	5.4	3.45	口縁部2/8 底面3/8 霰母・黒石細砂少	5Y R7/6	5Y R7/6	外周 5Y R7/6	内周 5Y R7/6	へう切り・備考
28	9	12.13	土師器・椀	B	坂城部東土層	—	7.7	—	底面4/8 霰母・黒石細砂少	5Y R5/6明赤褐	7.5Y R6/6	外周 5Y R5/6明赤褐	内周 7.5Y R6/6	備考
29	9	12.13	土師器・椀	B	坂城部東土層	—	7.4	—	底面4/8 霰母・黒石細砂少	2.5Y R7/8赤褐	5Y R6/6	外周 2.5Y R7/8赤褐	内周 5Y R6/6	備考

国文番号	所蔵番号	四角番号	種別・設備	調査地区	出土地点	法量 (cm)		形状	胎土	色調			調整		備考
						口径	底径			高さ	外壁	内面	外底	内底	
30	9	12.13	土師器・椀	B	竊塚跡土層	7.4	—	底部2/8	雲母・長石細砂少、石英中砂少	2.5YR5/2灰黄	2.5YR8/2灰白	2.5YR5/6淡黄	横ナ子	横ナ子	A類 (内黒)
31	9	12.13	黒色土器・椀	B	竊塚跡土層	11.0	—	口縁部破片	長石細砂少、石英中砂少	N1.5/黒	—	—	—	—	A類 (内黒)
32	9	12.13	黒色土器・椀	B	竊塚跡土層	14.8	—	口縁部破片	雲母・細砂少、石英中砂少	10YR6/6	5Y2/1黒	—	横ナ子	横ナ子	A類 (内黒)
33	9	12.13	黒色土器・椀	B	竊塚跡土層	8.0	—	底部8/8	雲母・長石細砂少、石英中砂少	5YR4/6赤褐	2.5Y3/7黒褐	—	へう割り・横ナ子	横ナ子	A類 (内黒)
34	9	12.13	黒色土器・椀	B	竊塚跡土層	7.6	—	底部8/8	雲母・長石細砂少、石英中砂少	10YR6/6	5Y2/1黒	—	横ナ子	横ナ子	A類 (内黒)
35	9	12.13	黒色土器・椀	B	竊塚跡土層	9.4	—	底部6/8	雲母・長石細砂少	2.5Y7/3淡黄	N2/黒	—	横ナ子	へう割き	A類 (内黒)
36	9	12.13	土師器・土器・高脚罎	B	竊塚跡土層	26.2	—	口縁部1/8	雲母・長石細砂	5YR5/6明赤褐	5YR6/6	—	指押入、へう割	横ナ子	A類 (内黒)
38	9	12.13	土師器・杯	B	竊塚跡土層中位	14.8	—	口縁部2/8	雲母・長石細砂	5YR5/6明赤褐	5YR6/6	—	横ナ子	横ナ子	—
39	9	12.13	須恵器・皿	B	竊塚跡土層下位	14.0	10.6	2.1	口縁部2/8 底部3/8	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	へう割り・横ナ子	横ナ子・不定方	—
40	9	12.13	須恵器・皿	B	竊塚跡土層下位	16.2	13.8	1.75	口縁部破片 底部破片	砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	横ナ子	横ナ子	—
41	9	12.13	須恵器・杯	B	竊塚跡9層(流土層上位)	—	9.3	—	底部2/8	砂粒細砂少	N5/灰	5YR5/2灰褐	へう割り・横ナ子	横ナ子・不定方	両者付
42	9	12.13	須恵器・杯	B	竊塚跡9層(流土層上位)	—	16.3	13.3	3.1	口縁部破片 底部破片	N7/灰白	7.5Y7/1灰白	横ナ子	横ナ子	—
43	9	12.13	須恵器・酒杯	B	竊塚跡9層(流土層上位)	—	16.2	—	底部破片	砂粒細砂少	N6/灰	7.5Y7/1灰白	横ナ子	横ナ子	外側に自然磨行量
44	9	12.13	須恵器・埴輪器	B	竊塚跡9層(流土層上位)	—	9.7	—	口縁部1/8	砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	横ナ子	横ナ子	—
45	9	12.13	須恵器・壺	B	竊塚跡2層(流土層上位)	—	10.2	—	底部4/8	砂粒細砂	N2/暗灰	N6/灰	横ナ子	横ナ子	底部に圧痕あり
46	9	12.13	土師器・杯	B	竊塚跡3層(流土層上位)	—	6.4	—	底部5/8	雲母・長石細砂	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	へう割り・磨減	磨減	内面に黒色磨行量
47	9	12.13	土師器・椀	B	竊塚跡4層(流土層上位)	—	7.3	—	底部8/8	雲母細砂少、石英中砂少	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	未調整・横ナ子	横ナ子	円縁状高台様
48	9	12.13	土師器・椀	B	竊塚跡5層(流土層上位)	—	8.0	—	底部6/8	雲母・長石細砂	2.5Y7/2灰黄	2.5Y8/1灰白	横ナ子・へう割り	横ナ子	円縁状高台様
49	9	12.13	土師器・椀	B	竊塚跡6層(流土層上位)	—	8.2	—	底部2/8	雲母・長石・石英細砂少	7.5YR6/6	5YR5/6明赤褐	横ナ子	横ナ子	—
50	9	12.13	黒色土器・椀	B	竊塚跡7層(流土層上位)	—	7.2	—	底部8/8	雲母・長石細砂少、石英中砂少	10YR8/6黄褐	2.5Y3/7黒褐	横ナ子・磨減	磨減	A類 (内黒)
51	9	12.13	土師質土器・高脚罎	B	竊塚跡8層(流土層上位)	—	22.9	—	口縁部破片	雲母・長石細砂、石英中砂	7.5YR6/6	7.5YR6/6	へう割き	磨減	—
52	9	19	越州郡赤漆器陶器	B	竊塚跡9層(流土層上位)	—	18.0	5.6	底部2/8	砂粒細砂	7.5Y6/3 オリーフ黄	オリーフ黄	横ナ子	横ナ子	割出し適合 台外側の位置で 分割に割が分かる 内面に自然磨行 痕あり
53	9	12.13	黒色土器・椀	B	竊塚跡10層(流土層下位)	—	14.7	—	口縁部破片	雲母・長石細砂少	10YR8/4 淡黄褐	2.5Y3/3灰褐	横ナ子	横ナ子	A類 (内黒)
54	9	21	砂瓦	B	竊塚跡7層(流土層下位)	—	—	—	—	7.5Y7/1灰白	2.5Y6/2灰黄	—	—	—	—

注文明細 番号	数量	品名	仕入地	法量 (cm)	積存量	積土	色調		調整		備考
							外周	内周	外周	内周	
55	9	12.13 丸瓦	B 第2チラス渡土層	16.0	—	砂粒粗砂	2.5Y7/2灰黄	10Y R8/6黄褐	—	—	—
56	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	8.4	—	砂粒粗砂	N6/灰	N6/灰	横子	横子	高台付
57	10	14.15 須恵路・皿	B 第3チラス渡土層	13.6	1.6	口縁部1/8 砂粒粗砂	5Y6/1灰	5Y6/1灰	横子	横子	外周・内周に火傷 （塗布）
58	10	14.15 須恵路・皿	B 第3チラス渡土層	13.3	10.6	1.7 口縁部破片 砂粒粗砂	N6/灰	N6/灰	へう切り・横子	横子	—
59	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	7.0	—	2.5Y7/6明黄褐	2.5Y7/6明黄褐	へう切り・横子	横子	—
60	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	7.4	—	10Y R6/6 明黄褐	10Y R6/6 明黄褐	へう切り・横子	横子	—
61	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	11.4	—	口縁部1/8 長石・石英粗砂	2.5Y5/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	横子	横子	—
62	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	7.0	—	10Y R2/1黒	10Y R2/1黒	横子	横子	A黒（内黒）
63	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	7.5	—	2.5Y R4/6赤褐	2.5Y R4/6赤褐	横子	横子	A黒（内黒）
64	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	8.8	—	10Y R7/6 明黄褐	10Y R4/1黄灰	横子	横子	A黒（内黒）
65	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	—	—	2.5Y6/3淡黄	—	横子	横子	—
66	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	10.0	5.2	2.0 口縁部2/8 砂粒粗砂	N5/灰	5Y7/1灰白	横子	横子	内周に藍用理
67	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	13.2	—	—	2.5Y5/1黄灰	N6/灰	横子	横子	—
68	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	14.0	—	—	N7/灰白	N6/灰	横子	横子	外周・内周に火傷 （塗布）
69	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	12.8	8.0	1.4 口縁部破片 砂粒粗砂	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	横子	横子	—
70	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	15.0	—	—	7.5Y R4/4褐	7.5Y R4/4褐	横子	横子	—
71	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	19.4	—	—	N5/灰	N7/灰白	横子	横子	—
72	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	11.8	—	—	2.5Y R4/4にぶ い赤褐	2.5Y R4/4にぶ い赤褐	横子	横子	外周・内周に火傷 （塗布）
73	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	7.6	—	N6/灰	N6/灰	横子	横子	高台付
74	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	7.4	—	N6/灰	N6/灰	横子	横子	高台付
75	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	8.5	—	2.5Y6/3淡黄	2.5Y8/2灰白	へう切り・横子	横子	高台付
76	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	8.6	—	N5/灰	N6/灰	横子	横子	高台付
77	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	8.5	—	N6/灰	7.5Y6/1灰	横子	横子	高台付
78	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	11.6	—	N5/灰	N5/灰	横子	横子	高台付
79	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	7.0	—	2.5Y6/1黄灰	2.5Y7/6淡黄	へう切り・横子	横子	高台付
80	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	8.7	—	N6/灰	N7/灰白	横子	横子	高台付
81	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	9.7	—	N6/灰	N5/灰	横子	横子	高台付
82	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	—	16.7	—	2.5Y6/3にぶい 黄	2.5Y6/4にぶい 黄	横子	横子	高台付
83	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	16.8	—	—	N6/灰	N5/灰	横子	横子	高台付
84	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	13.8	—	—	N6/灰	N6/灰	横子	横子	高台付
85	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	15.0	—	—	N6/灰	N6/灰	横子	横子	高台付
86	10	14.15 須恵路・坪	B 第3チラス渡土層	17.2	—	—	N6/灰	N7/灰白	横子	横子	高台付

編入 番号	区画 番号	種別・区境	隣接 地区	出土地点	法量 (cm)		埋分量	粘土	色調		調整		備考
					口徑	底径			外壁	内壁	外周	内周	
87	10 14.15	須恵器・杯	B 第3チラス波土層	底径3/8	6.8	—	砂粒細砂少	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	へう切り・横ナズ	横ナズ		
88	10 14.15	須恵器・杯	B 第3チラス波土層	底径3/8	8.2	—	砂粒細砂少	5Y7/2灰黄	5Y7/1灰白	へう切り・横ナズ	横ナズ		
89	10 14.15	須恵器・杯	B 第3チラス波土層	底径2/8	8.4	—	砂粒細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	横ナズ	横ナズ		外面に火傷痕あり
91	10 14.15	須恵器・杯	B 第3チラス波土層	7.0	—	—	砂粒細砂少	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	へう切り・横ナズ	横ナズ		
92	10 14.15	須恵器・杯	B 第3チラス波土層	8.4	—	—	砂粒細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	へう切り・横ナズ	横ナズ		
93	10 14.15	須恵器・杯	B 第3チラス波土層	13.5 10.3	3.0	—	砂粒細砂少 口縁部1/8 底部破片	5Y7/1灰白	5Y7/2灰白	横ナズ	横ナズ		
94	10 14.15	須恵器・杯	B 第3チラス波土層	11.6	—	—	砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	へう切り・横ナズ	横ナズ		
95	10 14.15	須恵器・皿	B 第3チラス波土層	14.8 11.0	2.1	—	口縁部破片 底部破片	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	横ナズ	横ナズ		
96	10 14.15	須恵器・皿	B 第3チラス波土層	15.4 11.8	2.2	—	砂粒細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	横ナズ	横ナズ		
97	10 14.15	須恵器・皿	B 第3チラス波土層	15.0 11.2	1.8	—	口縁部2/8 口部2/8	N6/灰	N6/灰	へう切り・横ナズ	横ナズ		
98	10 14.15	須恵器・細頸鉢	B 第3チラス波土層	10.2	—	—	口縁部破片	5Y6/1灰	5Y6/1灰	横ナズ	横ナズ		
99	10 14.15	須恵器・細頸鉢	B 第3チラス波土層	—	—	—	砂粒細砂少	7.5Y7/1灰白	N4/灰	横ナズ	横ナズ		
100	10 14.15	須恵器・細頸鉢	B 第3チラス波土層	—	—	—	砂粒細砂少量	N7/灰白	N6/灰	横ナズ	横ナズ		
101	10 14.15	須恵器・細頸鉢	B 第3チラス波土層	—	—	—	砂粒細砂少	2.5Y7/1灰白	N5/灰	横ナズ	横ナズ		外面に自然釉付着あり
102	10 14.15	須恵器・壺	B 第3チラス波土層	—	—	—	砂粒細砂少	5Y7/2灰白	N7/灰白	横ナズ	横ナズ		外面に自然釉付着あり
103	10 14.15	須恵器・壺	B 第3チラス波土層	—	—	—	砂粒細砂量	N6/灰	N6/灰	横ナズ	横ナズ		外面に自然釉付着あり
104	10 14.15	須恵器・壺	B 第3チラス波土層	12.0	—	—	砂粒中砂量	N4/灰	N4/灰	横ナズ	横ナズ		外面に自然釉付着あり
105	10 14.15	須恵器・壺	B 第3チラス波土層	8.4	—	—	砂粒細砂少	N6/灰	N5/灰	横ナズ	横ナズ		外面・内面に自然釉付着あり
106	10 14.15	須恵器・壺	B 第3チラス波土層	7.6	—	—	口縁部1/8	N5/灰	N6/灰	横ナズ	横ナズ		外面に自然釉付着あり
107	10 14.15	須恵器・壺	B 第3チラス波土層	11.4	—	—	口縁部1/8	5Y R6/2灰黄	5Y R6/2灰黄	横ナズ	横ナズ		内面に自然釉付着あり
108	10 14.15	須恵器・壺	B 第3チラス波土層	10.1	—	—	口縁部2/8 体部2/8	N5/灰	N6/灰	横ナズ	横ナズ		外面に自然釉付着あり
109	10 14.15	須恵器・頸鉢	B 第3チラス波土層	22.2	—	—	口縁部破片	2.5Y7/2灰黄	5Y7/1灰白	横ナズ	横ナズ		
110	10 14.15	須恵器・頸鉢	B 第3チラス波土層	22.6	—	—	口縁部破片	N6/灰	N6/灰	横ナズ	横ナズ		
111	10 14.15	須恵器・頸鉢	B 第3チラス波土層	21.4	—	—	口縁部破片	5Y6/1灰	N6/灰	横ナズ	横ナズ		
112	10 14.15	紀伊陶	B 第3チラス波土層	9.2	9.4	1.2	体部破片	N5/灰	N6/灰	即ち器 帽子即ち 横ナズ	横ナズ		須恵器・壺の体部に 紀伊陶を貼付
113	11 16	土師器・杯	B 第3チラス波土層	—	5.8	—	底径2/8	5Y R6/2灰黄	5Y R6/2灰黄	横ナズ	横ナズ		
114	11 16	土師器・杯	B 第3チラス波土層	—	6.4	—	器田・黒石細砂少	5Y R6/2灰黄	5Y R6/2灰黄	へう切り・横ナズ	横ナズ		
115	11 16	土師器・杯	B 第3チラス波土層	—	5.8	—	器田・黒石細砂少	5Y R6/2灰黄	5Y R6/2灰黄	へう切り・横ナズ	横ナズ		
116	11 16	土師器・杯	B 第3チラス波土層	—	6.0	—	器田・黒石細砂少	7.5Y R7/6橙	7.5Y R7/6橙	へう切り・横ナズ	横ナズ		
117	11 16	土師器・杯	B 第3チラス波土層	—	6.2	—	器田・黒石細砂少	7.5Y R5/6明黄	7.5Y R5/6明黄	横ナズ	横ナズ		
118	11 16	土師器・杯	B 第3チラス波土層	—	7.4	—	器田・黒石細砂少	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	へう切り・横ナズ	横ナズ		

標文番号	採石場番号	採石場名称	採石場所在地	出土地点	法量 (Gm)		残存量	動土	色調			備考	
					口徑	底径			外周	内周	外周		内周
119	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	12.8	7.4	3.0	口縁部破片 底面2/8	母・長石細砂少、石英中砂多	2.5Y 8/3淡黄	2.5Y 8/3淡黄	磨滅	—
120	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	—	7.2	—	底面5/8	母・長石細砂少	2.5Y 8/3淡黄	2.5Y 7/6明黄褐	へら切り・磨滅	横子子
121	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	—	8.0	—	底面5/8	母・長石細砂少、石英中砂少	2.5Y 8/4淡黄	2.5Y 8/4淡黄	へら切り・横子子	横子子
122	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	—	10.0	—	底面3/8	長石細砂少	5Y 8/2R白	5Y 8/1灰白	磨滅	磨滅
123	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	12.6	7.4	3.2	口縁部1/8 底面4/8	母・長石細砂少、石英中砂少	2.5Y 8/3淡黄	2.5Y 8/3淡黄	磨滅	磨滅
124	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	—	7.2	—	底面7/8	母・長石細砂少	5Y R 5/6明赤褐	5Y R 5/6明赤褐	へら切り・横子子	横子子
125	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	—	8.4	—	底面2/8	母・長石細砂少	5Y R 6/6暗	5Y R 6/6暗	へら切り・横子子	横子子
126	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	—	8.2	—	底面2/8	母・長石・石英細砂少	10Y R 7/4	2.5Y 7/3淡黄	へら切り・横子子	横子子
127	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	—	7.0	—	底面2/8	母・長石・石英細砂少	5Y R 6/6暗	5Y R 6/6暗	へら切り・横子子	横子子
128	11	16	土師器・坏	第3チラス土師	10.8	5.9	2.35	口縁部1/8 底面2/8	母・長石細砂少	10Y R 6/6 明黄褐	10Y R 6/6 にぶい黄褐	横子子	横子子
129	11	16	土師器・皿	第3チラス土師	12.0	8.4	1.55	口縁部2/8 底面2/8	長石細砂少	2.5Y R 5/6 明赤褐	2.5Y R 5/6 明赤褐	へら切り・横子子	横子子
130	11	16	土師器・皿	第3チラス土師	—	9.6	—	底面2/8	母・長石・石英細砂少	2.5Y 7/4淡黄	10Y R 6/4 にぶい黄褐	磨滅	磨滅
131	11	16	土師器・椀	第3チラス土師	—	7.2	—	底面2/8	母・長石細砂少、石英中砂少	5Y R 4/6赤褐	5Y R 5/6明赤褐	へら切り・横子子	横子子
132	11	16	土師器・椀	第3チラス土師	—	8.1	—	底面2/8	母・長石細砂少、石英中砂少	2.5Y 7/3淡黄	2.5Y 7/3淡黄	へら切り・横子子	横子子
133	11	16	土師器・椀	第3チラス土師	16.6	8.5	—	口縁部破片 底面2/8	長石細砂多	5Y R 6/6暗	5Y R 5/6明赤褐	横子子	横子子
134	11	16	土師器・椀	第3チラス土師	—	8.2	—	底面1/8	母・長石・石英中砂少	5Y R 4/6赤褐	5Y R 5/6明赤褐	横子子	横子子
135	11	16	土師器・椀	第3チラス土師	—	6.0	—	底面5/8	母・長石細砂少、石英中砂少	10Y R 8/4 淡黄褐	10Y R 8/4 淡黄褐	磨滅	磨滅
136	11	16	土師器・椀	第3チラス土師	—	6.0	—	底面4/8	母・長石・石英中砂少	7.5Y R 7/6暗	10Y R 7/4 にぶい黄褐	磨滅	磨滅
137	11	16	土師器・椀	第3チラス土師	—	8.2	—	底面破片	母・長石・石英細砂少	10Y R 8/6赤褐	10Y R 7/6 明黄褐	横子子	横子子
138	11	16	黑色土師・椀	第3チラス土師	17.6	—	—	口縁部1/8	母・石英細砂少	10Y R 6/6 明黄褐	10Y 2/1黒	横子子	横子子
139	11	16	黑色土師・椀	第3チラス土師	16.0	—	—	口縁部破片	長石細砂少	5Y R 6/6暗	2.5Y 3/3黒	横子子	横子子
140	11	16	黑色土師・椀	第3チラス土師	—	7.0	—	底面破片	母・長石細砂少	10Y R 7/4 にぶい黄褐	10Y R 3/1黄褐	横子子	横子子
141	11	16	黑色土師・椀	第3チラス土師	—	6.8	—	底面3/8	母・長石細砂多	5Y R 6/6明赤褐	2.5Y 3/3黒	横子子	横子子
142	11	16	黑色土師・椀	第3チラス土師	—	8.1	—	底面3/8	母・長石・石英細砂少	5Y R 5/6明赤褐	2.5Y 4/4黄灰	磨滅	磨滅
143	11	16	土師器・小杯	第3チラス土師	20.2	—	—	口縁部2/8	母・長石・石英中砂少	5Y R 4/6赤褐	5Y R 4/6赤褐	磨滅	磨滅
144	11	16	土師器・土師・糸	第3チラス土師	8.6	—	—	口縁部破片	母・長石細砂少、石英中砂少	10Y R 5/4 にぶい黄褐	10Y R 5/4 明黄褐	横子子	横子子
145	11	16	土師器・土師・糸	第3チラス土師	26.0	—	—	口縁部1/8	母・長石細砂少、石英中砂少	7.5Y R 4/4暗	7.5Y R 4/4暗	横子子	横子子
146	11	16	土師器・土師・糸	第3チラス土師	26.6	—	—	口縁部1/8	長石細砂多、石英中砂多	10Y R 4/4暗	7.5Y R 4/4暗	横子子	横子子

標文 番号	四灰 番号	規格・配種	調査 地区	出土地点	法量 (cm)		積存量	積土	色調		調整		備考
					口徑	底径			外面	内面	外面	内面	
147	11	16	B	第3チラス流土層	28.7	—	—	口磨部破片 優品・黒石細砂少	5Y R/6(赤褐)	5Y R/6(赤褐)	ハケ目・ハケ目 後継子・横ナ子	ハケ目・横ナ子	
148	11	16	B	第3チラス流土層	31.2	—	—	口磨部1/8 優品・黒石・石灰細砂多	10Y R/6/4 にふい黄褐色	10Y R/6/4 にふい黄褐色	ハケ目・横ナ子	ハケ目・横ナ子	
149	12	17,18	B	須恵路・坏層	11.1	—	—	口磨部2/8 砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	横ナ子	横ナ子	外面に自然能付層 内面に能付層
150	12	17,18	B	須恵路・坏層	14.3	8.1	1.3	口磨部2/8 底部2/8	N6/灰	N7/灰白	横ナ子	横ナ子	外面に自然能付層 内面に能付層
151	12	17,18	B	須恵路・坏層	17.0	10.4	1.7	口磨部3/8 底部3/8	N7/灰白	N7/灰白	横ナ子	横ナ子	
152	12	17,18	B	須恵路・坏層	19.5	15.7	0.8	口磨部1/8 底部1/8	2.5Y7/1灰白	N8/灰白	横ナ子	横ナ子	
153	12	17,18	B	須恵路・坏層	19.7	13.6	1.4	口磨部1/8 砂粒細砂少	N7/灰白	N4/灰	横ナ子	横ナ子	外面・内面に火傷 痕あり
154	12	17,18	B	須恵路・坏	16.0	—	—	口磨部1/8 砂粒細砂少	N6/灰	N5/灰	横ナ子	横ナ子	適合付
155	12	17,18	B	須恵路・坏	—	8.5	—	底部1/8 砂粒細砂少	2.5Y7/1灰白	2.5Y8/1灰白	へう切り・横ナ子	横ナ子	適合付
156	12	17,18	B	須恵路・坏	—	10.3	—	底部1/8 砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	横ナ子	横ナ子	適合付
157	12	17,18	B	須恵路・坏	—	10.6	—	底部1/8 砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	横ナ子	横ナ子	適合付
158	12	17,18	B	須恵路・坏	15.0	12.2	2.85	口磨部4/8 底部4/8	7.5Y6/1灰	5Y7/1灰白	へう切り・横ナ子	横ナ子	
159	12	17,18	B	須恵路・坏	15.8	—	—	口磨部破片 砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	横ナ子	横ナ子	
160	12	17,18	B	須恵路・坏	12.6	7.0	3.55	口磨部3/8 底部3/8	5Y8/1灰白	5Y8/2灰白	へう切り・横ナ子	横ナ子	外面・内面に火傷 痕あり
161	12	17,18	B	須恵路・坏	13.6	8.2	2.9	口磨部1/8 底部1/8	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	へう切り・横ナ子	横ナ子	
162	12	17,18	B	須恵路・坏	14.6	11.1	1.9	口磨部1/8 底部1/8	N4/灰	N4/灰	横ナ子	横ナ子	
163	12	17,18	B	須恵路・坏	—	—	—	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	横ナ子	横ナ子	外面に自然能付層
164	12	17,18	B	須恵路・坏	8.7	—	—	砂粒細砂少	N4/灰	N6/灰	横ナ子	横ナ子	
165	12	19	B	須恵路・坏	—	10.9	—	底部1/8 砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	横ナ子・横ナ子 後継子	横ナ子	外面に自然能付層
166	12	17,18	B	須恵路・坏	—	—	—	砂粒細砂少	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	横ナ子	横ナ子	
167	12	17,18	B	須恵路・坏	20.7	—	—	口磨部破片 砂粒細砂少	N7/灰白	N7/灰白	横ナ子	横ナ子	注有(口あり)
168	12	17,18	B	土師路・坏	—	8.0	—	底部1/8 黒石細砂少・石灰中砂少	10Y R/6/6 明黄褐色	10Y R/6/6明 黄褐色	へう切り・横ナ子	横ナ子	
169	12	17,18	B	土師路・坏	—	7.2	—	底部4/8 優品・黒石細砂・石灰中砂少	10Y R/6/6黄褐色	10Y R/7/6黄褐色	へう切り・横ナ子	横ナ子	
170	12	17,18	B	土師路・坏	13.2	8.4	3.35	口磨部破片 底部1/8	10Y R/8/2灰白	10Y R/8/2灰白	横ナ子	横ナ子	
171	12	17,18	B	土師路・坏	—	9.1	—	底部3/8 優品・黒石細砂少	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	横ナ子・へう切り	横ナ子	
172	12	17,18	B	土師路・坏	—	8.1	—	底部1/8 優品・黒石細砂・石灰中砂 少	10Y R/6/4 にふい黄褐色	2.5Y6/3 にふい黄褐色	へう切り・横ナ子	横ナ子	
173	12	17,18	B	土師路・坏	—	6.8	—	底部3/8 優品・黒石細砂少	10Y R/8/4 浅黄褐色	10Y R/8/4 浅黄褐色	横ナ子・へう切り	横ナ子	同標表高台付
174	12	17,18	B	黒色土師・坏	17.2	—	—	底部3/9 優品・黒石細砂少	10Y R/7/6 明黄褐色	10Y R/4/1灰白	横ナ子	横ナ子	A類 (内黒)

館文庫 番号	図面 番号	図別・部種	調査 地区	出土地点	法量 (cm)		積存層	積土	色調		調整		備考	
					口徑	高さ			外面	内面	外面	内面		
175	12	17.18	黒色土器・椀	B 第3チラス流土層	—	8.6	底層3/10	長石・石英中砂少	10Y R7/6 明黄褐色	10Y R5/10 灰	磨滅	—	A類 (内装)	
176	12	17.18	黒色土器・椀	B 第3チラス流土層	—	6.8	底層3/11	長石・石英細砂少	10Y R7/4 に濃い黄褐色	5Y2/1黒	へう切り・楕子	へう磨き	A類 (内装)	
177	12	17.18	黒色土器・椀	B 第3チラス流土層	—	7.0	底層3/12	雲母・長石細砂少	5Y R7/6暗	10Y R4/1暗灰	へう切り・楕子	へう磨き	A類 (内装)	
178	12	17.18	黒色土器・椀	B 第3チラス流土層	—	6.2	底層3/13	雲母・長石細砂少、石英中砂少	2.5Y R5/6明焼	10Y R3/1黒褐	磨滅	—	A類 (内装)	
179	12	17.18	土師質土器・長 脚盤	B 第3チラス流土層	23.2	—	底層3/14	長石・石英細砂並	7.5Y R5/6明焼	7.5Y R6/6暗	楕子・八角目・ 花押瓦楕子	楕子	—	
180	12	17.18	土師質土器・長 脚盤	B 第3チラス流土層	26.6	—	底層3/15	雲母・長石・石英中砂少	7.5Y R4/6暗	7.5Y R4/6暗	楕子・八角目	楕子・八角目	—	
181	12	17.18	土師質土器・長 脚盤	B 第3チラス流土層	30.5	—	底層3/16	雲母・長石・石英中砂少	5Y R4/6赤褐	5Y R5/6暗赤褐	楕子・八角目	楕子	—	
182	12	17.18	土師質土器・長 脚盤	B 第3チラス流土層	8.8	6.3	2.0	底層3/17	長石・石英細砂並	7.5Y7/1灰白	5Y R7/6暗	—	—	
184	12	17.18	須恵器・杯	B 第3チラス流土層	—	1.7	底層3/18	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	楕子	磨り面	外面に倉高層付縁 内面に藍青層	
185	12	17.18	須恵器・杯	B 第3チラス流土層	—	11.4	底層3/19	砂粒細砂少	N4/灰	N5/灰	楕子	不定万端の楕子	高台付	
186	12	17.18	土師器・杯	B 第3チラス流土層	—	9.5	底層3/20	黒石細砂少、石英中砂少	5Y5/1灰	8Y5/2灰白	楕子	楕子	高台付	
187	12	17.18	土師器・杯	B 第3チラス流土層	—	8.4	底層3/21	長石・石英中砂少	2.5Y7/6明黄褐	2.5Y7/6明黄褐	へう切り・楕子	楕子	高台付	
188	12	17.18	須恵器・皿	B 第3チラス流土層	15.4	11.9	1.45	底層3/22	砂粒細砂少	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	へう切り・楕子	楕子	—

第2表 石製品観察表

館文庫 番号	図面 番号	図別・部種	調査 地区	出土地点	法量 (cm)		積存層	材質	色調		調整		備考	
					口徑	高さ			外面	内面	外面	内面		
37	9	20	石濠	B 砥張跡土層上位	3.9	2.9	0.75	—	N6/灰	N6/灰	—	—	—	
183	12	17.18	碇石	B 第3チラス流土層	9.2	9.4	7.0	—	砂岩	2.5Y7/1灰白	10Y7/1灰白	磨き面	—	—

第3表 金属製品観察表

館文庫 番号	図面 番号	図別・部種	調査 地区	出土地点	法量 (cm)		積存層	材質	調査 箇所	色塗		備考
					長さ	幅				外面	内面	
189	13	22	銅杖	B 第3チラス流土層	2.6	1.45	0.6	—	銅製品	—	7.5Y2/2 オリーブ黒	内面
190	13	22	銅杖	B 砥張跡土層	1.5	0.5	0.35	—	銅製品	—	5B6/1青灰	5B6/1青灰
191	13	23	三脚片	B 第3チラス流土層	5.9	1.8	0.5	—	銅製品	—	5G5/1緑灰	2.5Y4/2緑灰



A) 中寺廃寺跡 全景 (南東より)



B) A地区第12テラス 遺構検出状況 全景 (南より)

図版 3



A) A地区第12テラス 遺構検出状況 ディテール (北より)



B) A地区第12テラス 西壁土層断面 (南東より)



A) A地区第12テラス 南壁土層断面 (北東より)



B) A地区第12テラス 南壁土層断面 (北西より)

図版 5



A) A地区第12テラス拡張部 検出状況 全景 (南より)



B) A地区第12テラス拡張部 検出状況 全景 (北東より)



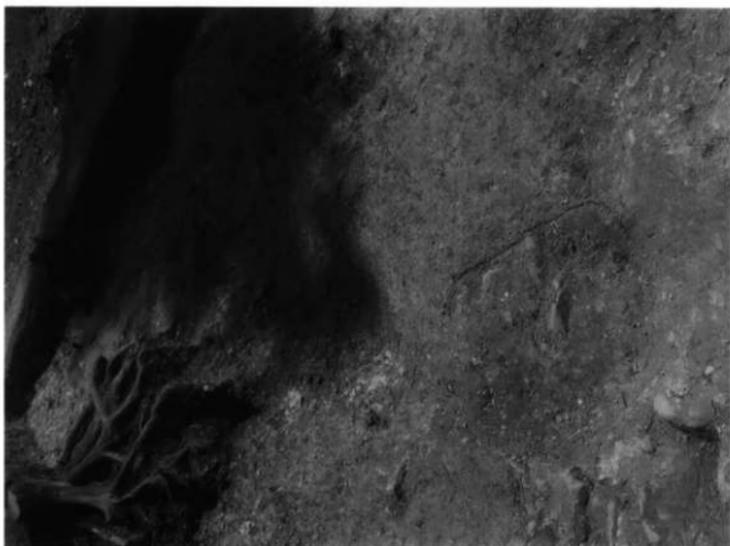
A) B地区第1テラス 礎石建物跡より大川山を望む



B) B地区第3テラス 遺構検出状況 全景（北東より）



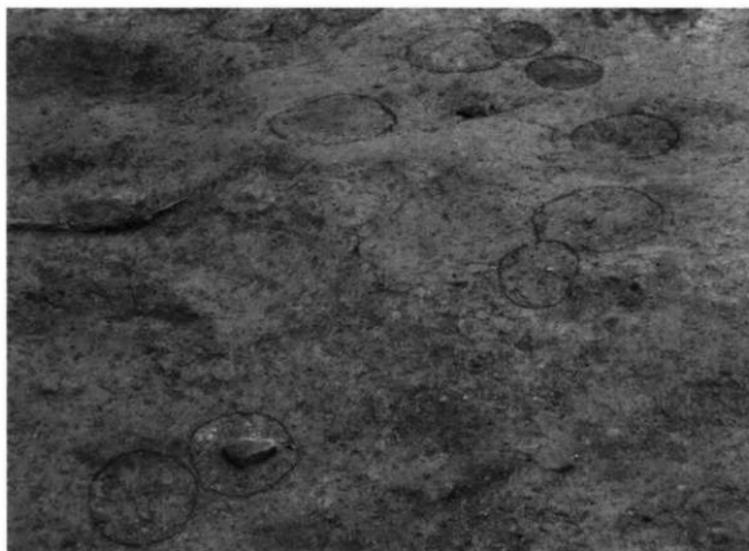
A) B地区第3テラス 遺構検出状況 全景 (南東より)



B) B地区第3テラス SD07 完掘状況 (西より)



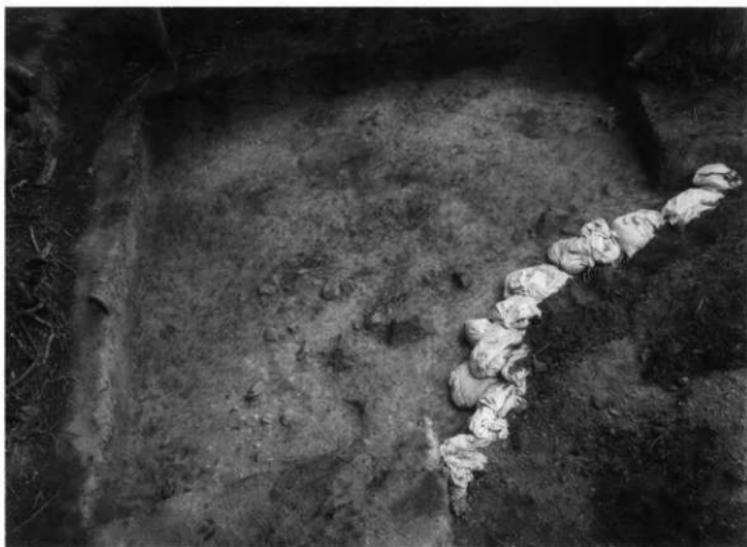
A) B地区第3テラス 掘立柱建物跡 北西部分 検出状況(南西より)



B) B地区第3テラス 掘立柱建物跡 南西部分 検出状況(南西より)



A) B地区第3テラス 掘立柱建物跡 南東部分 検出状況 (南西より)



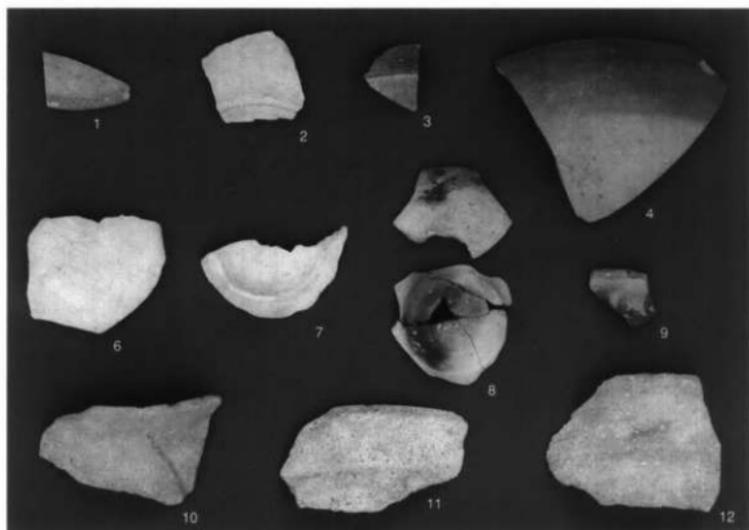
B) B地区第3テラス拡張部 南西部 遺構面検出状況 全景 (南より)



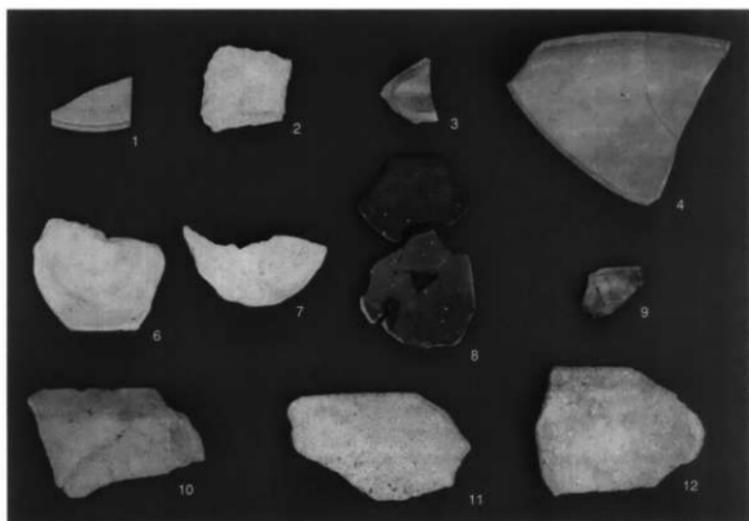
A) B地区第3テラス拡張部 北西部 遺構面検出状況 全景(南より)



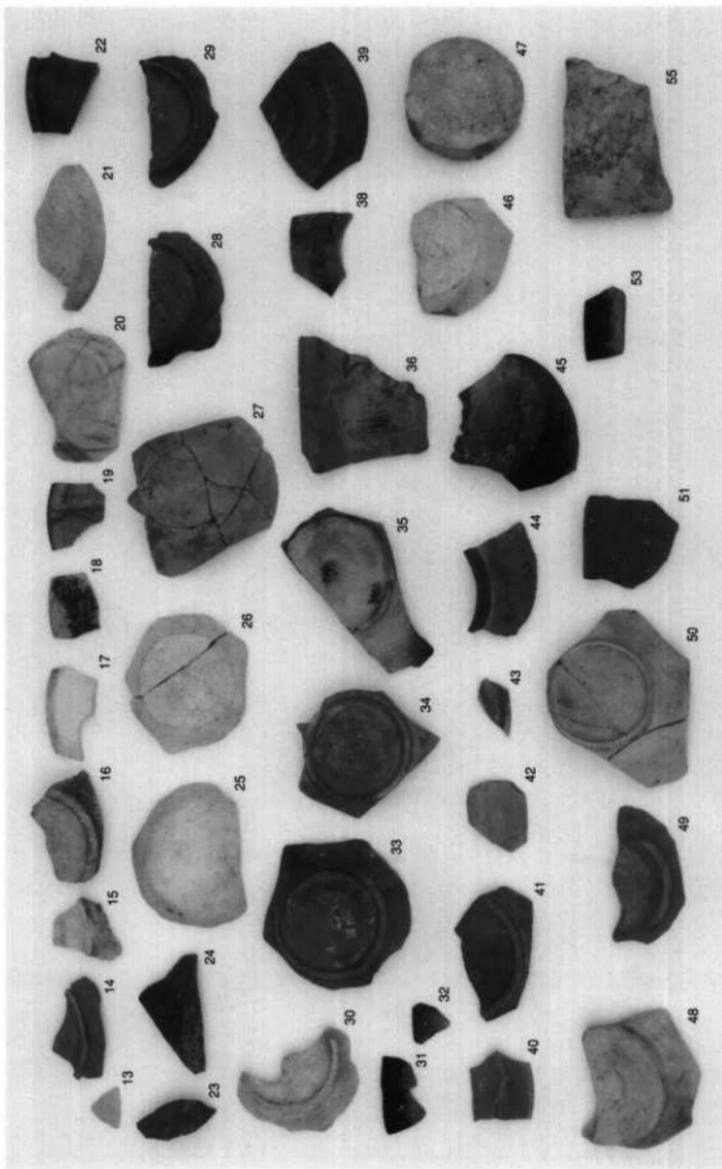
B) B地区第3テラス拡張部 東部 遺構面検出状況 全景(南より)



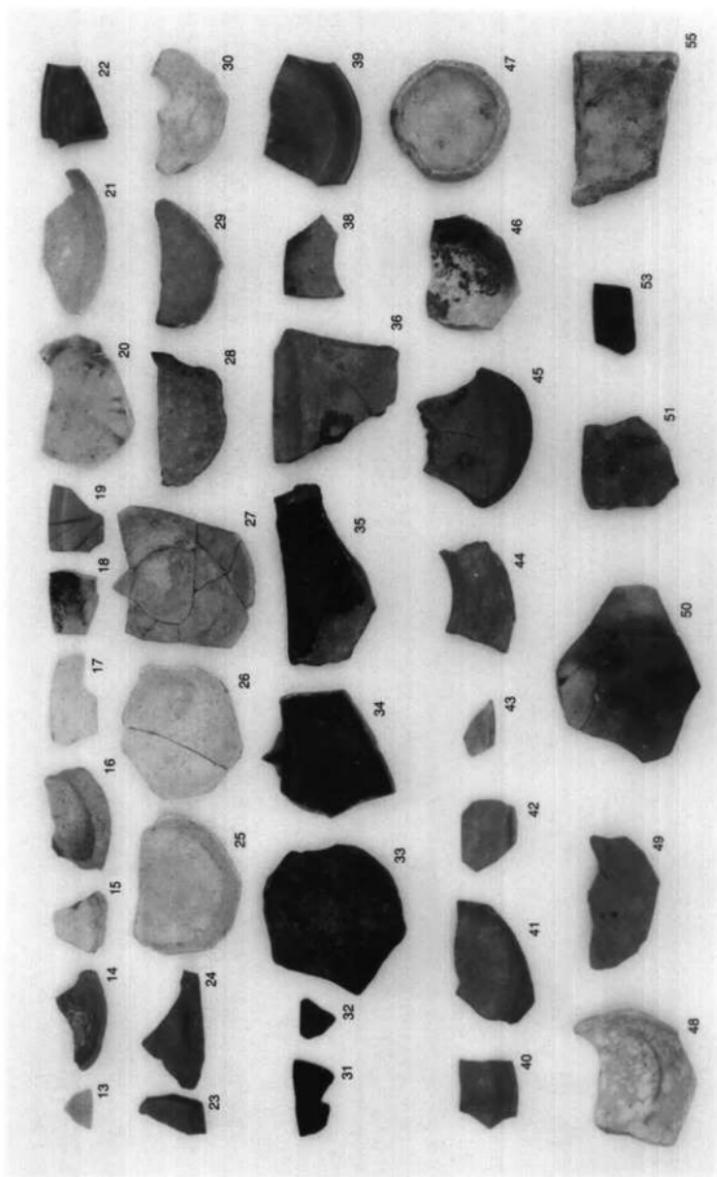
A) 第8図 B地区第2・第3テラス西半間斜面 出土遺物(1~12) 外面



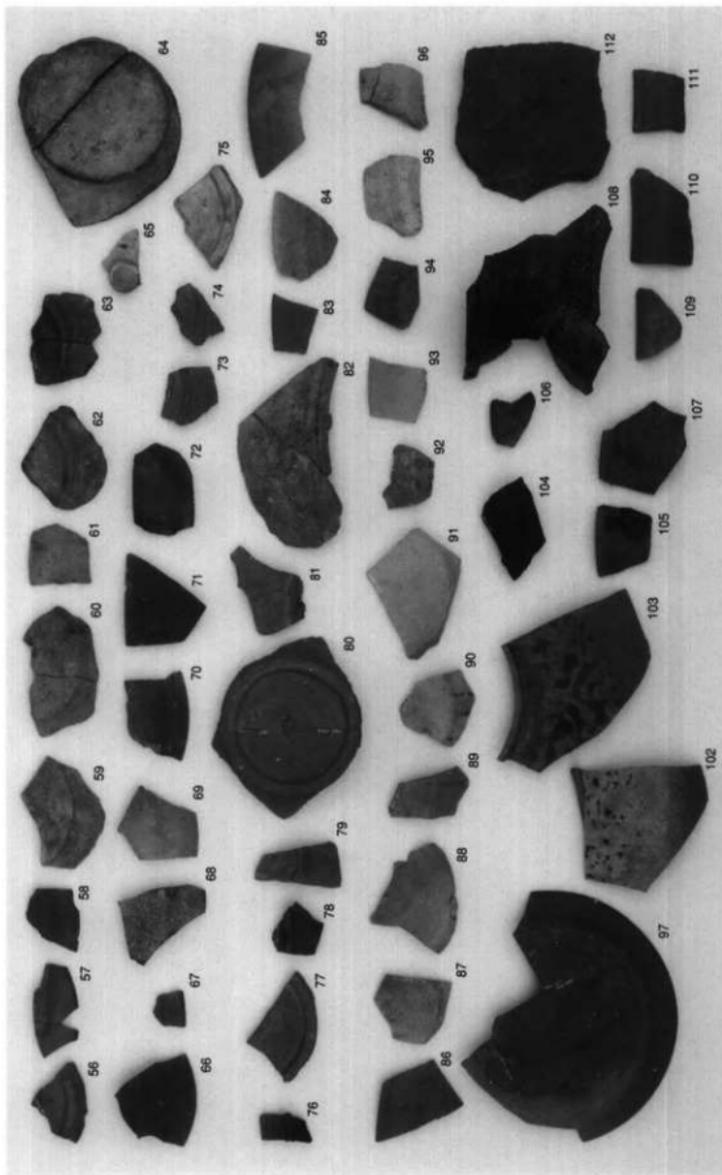
B) 第8図 B地区第2・第3テラス西半間斜面 出土遺物(1~12) 内面



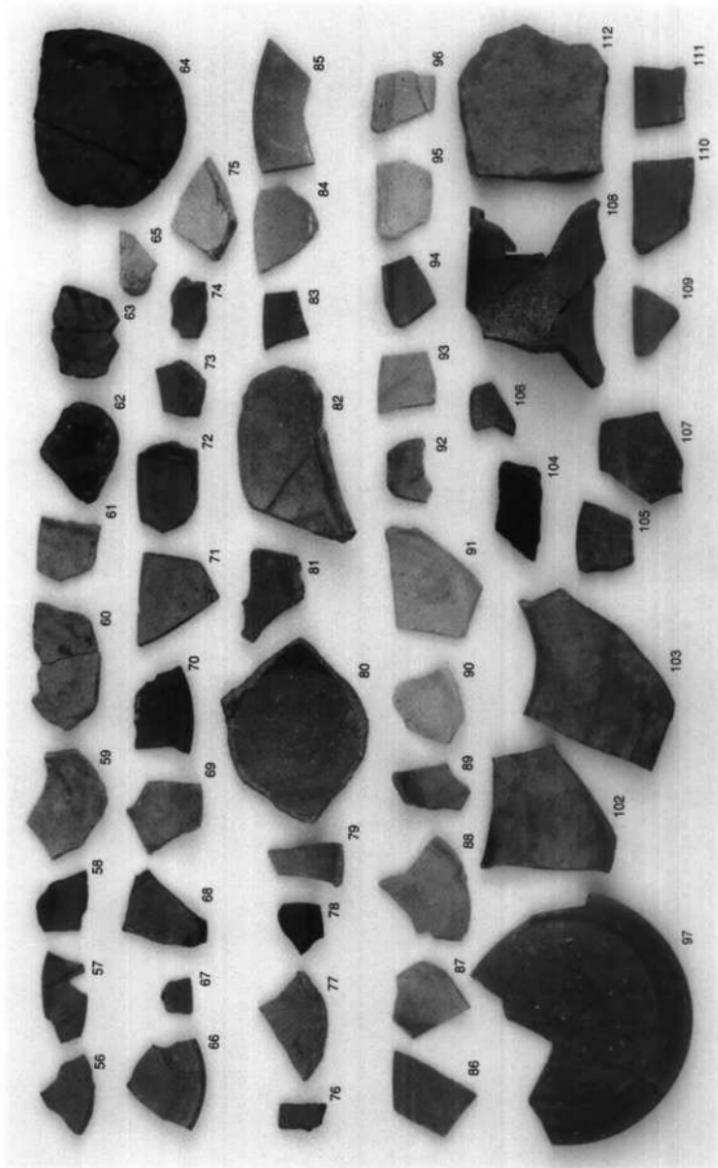
第9図 B地区第2・第3テラス西半間斜面 出土遺物(13~55) 外面



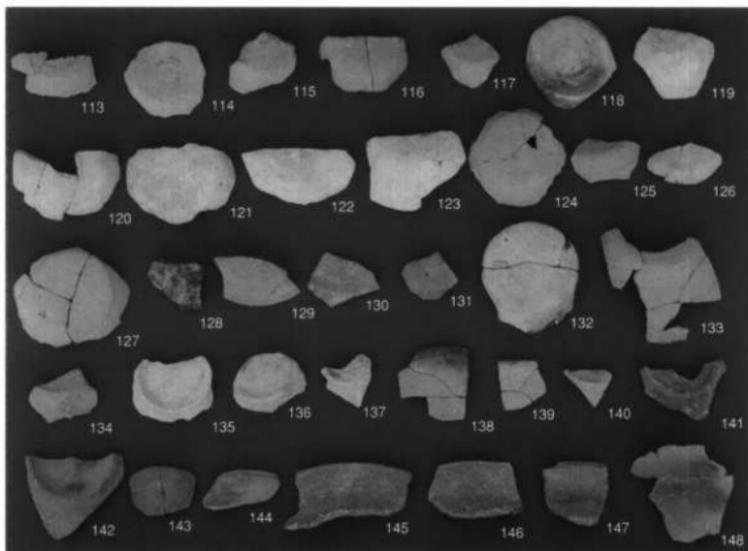
第9図 B地区第2・第3テラス西半間斜面 出土遺物 (13~55) 内面



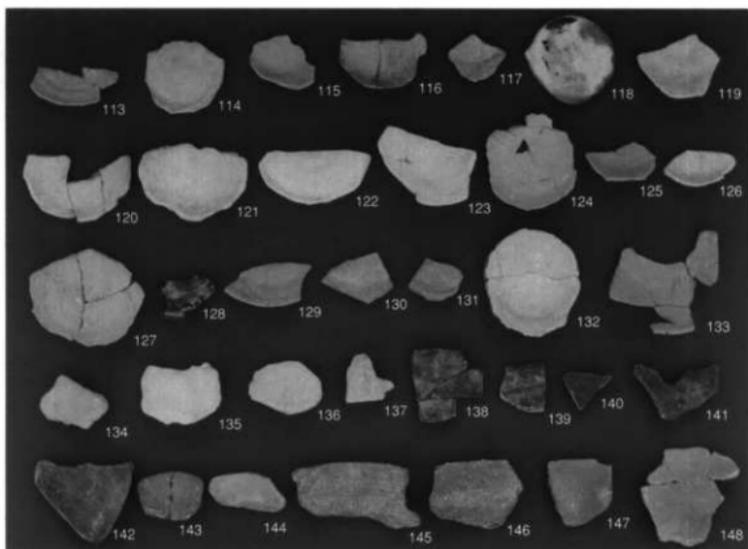
第10図 B地区第2・第3テラス西半間斜面 出土遺物 (56~112) 外面



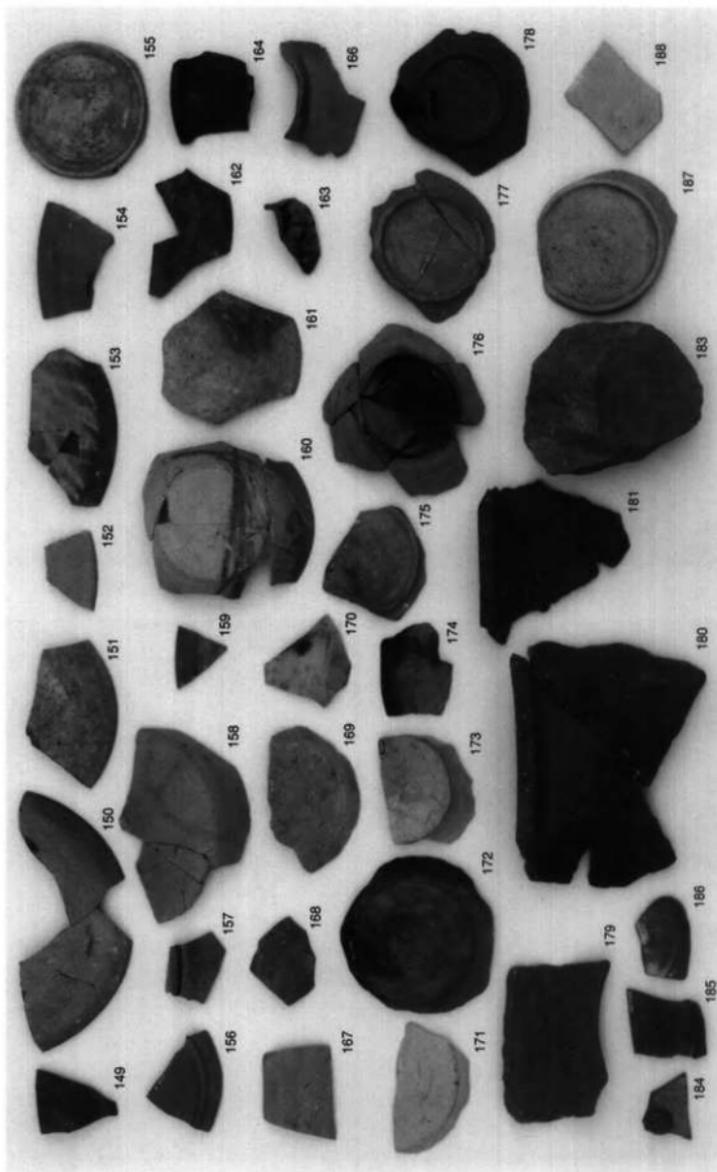
第10図 B地区第2・第3テラス西半間斜面 出土遺物 (56~112) 内面



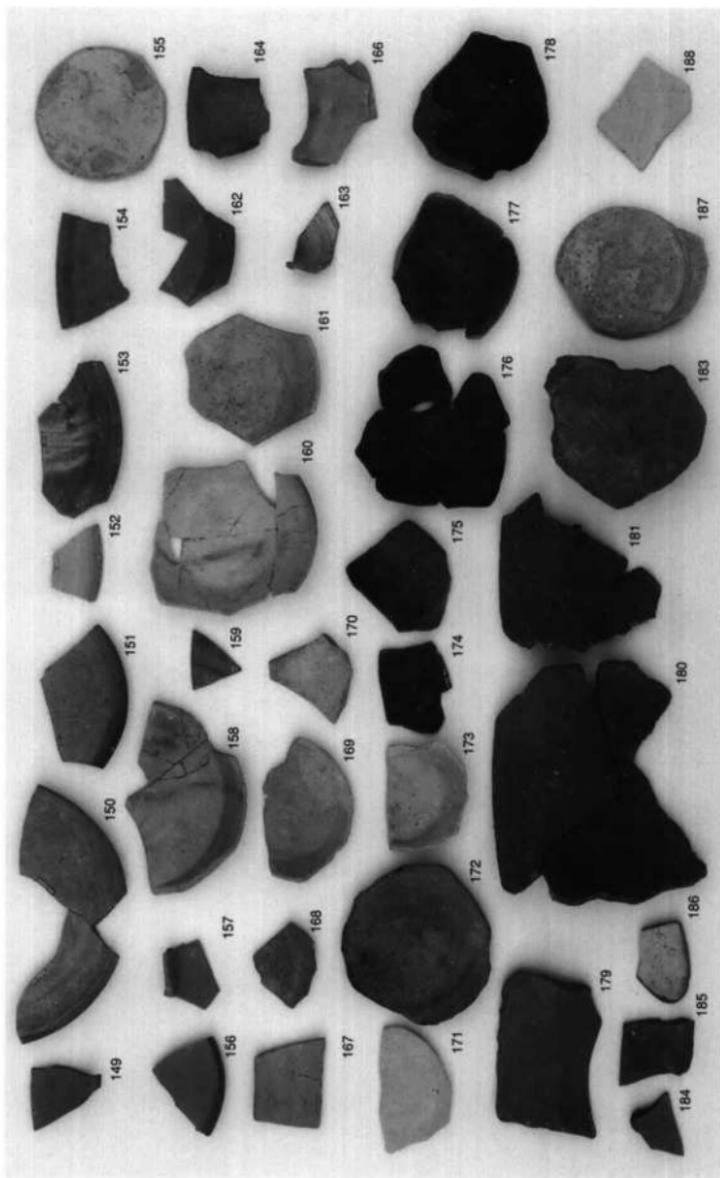
A) 第11図 B地区第3テラス 出土遺物 (113~148) 外面



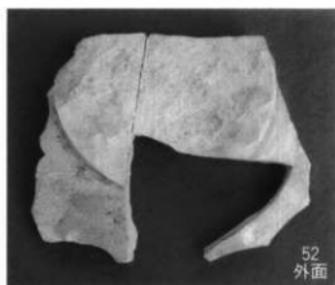
B) 第11図 B地区第3テラス 出土遺物 (113~148) 内面



第12図 B地区第3テラス 出土遺物(149~188) 外面

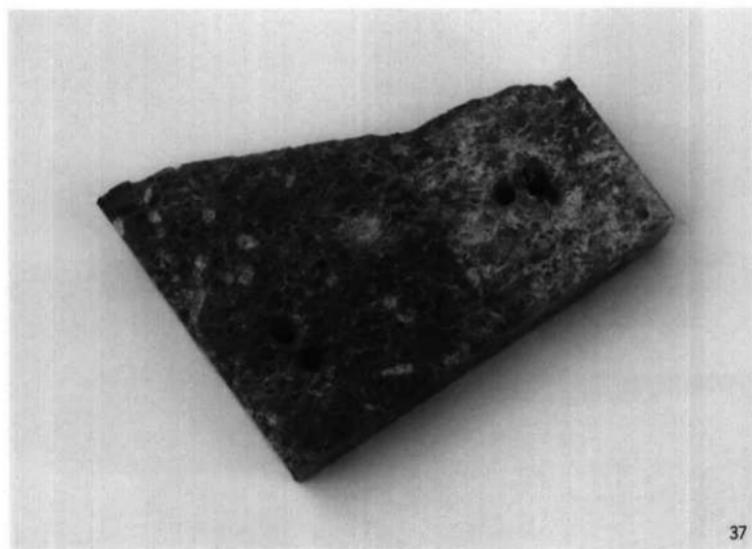


第12図 B地区第3テラス 出土遺物 (149~188) 内面



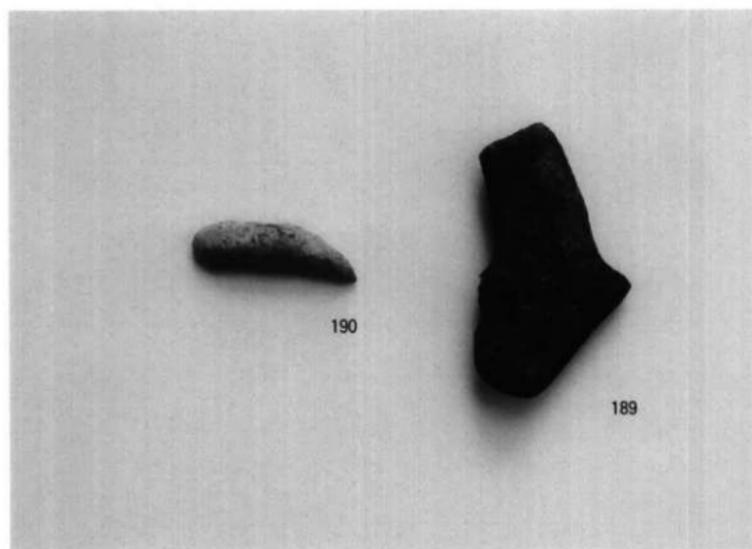
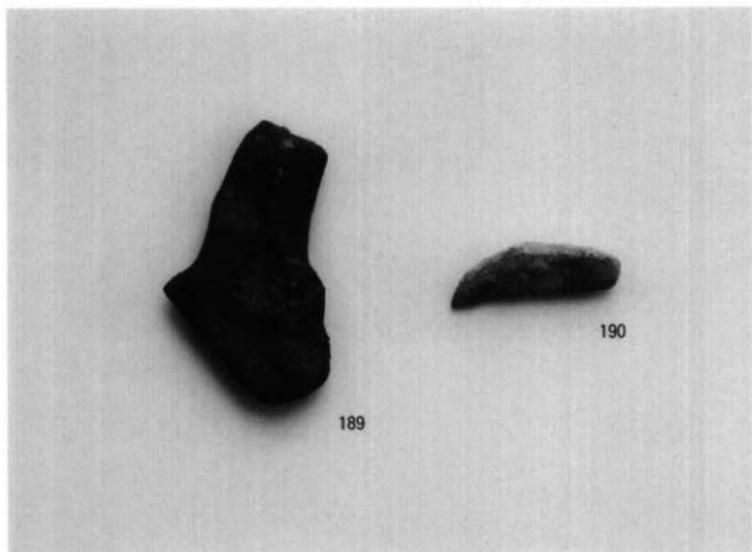


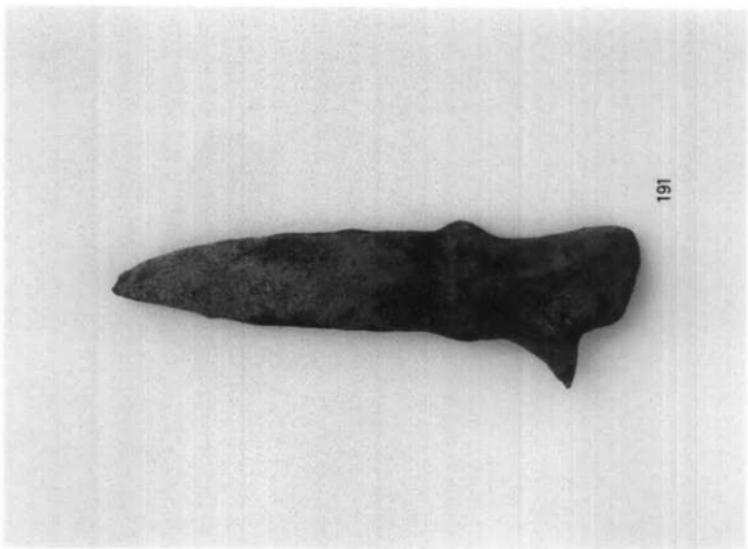
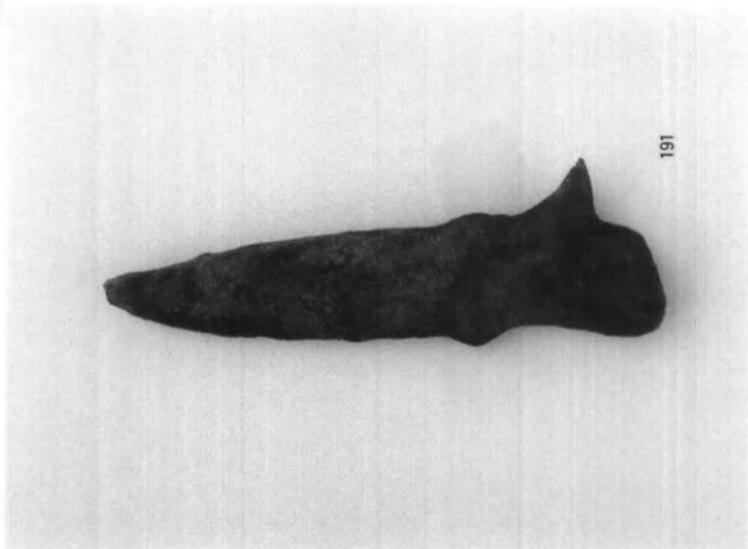
37



37







報告書抄録

ふりがな	なかでらはいじあと へいせい21ねんど							
書名	中寺廃寺跡 平成21年度							
副書名								
巻次	2010年3月							
シリーズ名	まんのう町内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第7集							
編著者名	中村・文枝							
編集機関	まんのう町教育委員会 中寺廃寺発掘調査室							
所在地	〒766-0202 香川県仲多度郡まんのう町中通875番地 琴南公民館内 TEL(0877)85-2221							
発行機関	まんのう町教育委員会							
発行年月日	2010年3月27日							
総頁数	目次等	本	文	図	版	表	挿図枚数	写真枚数
62	6	32		23		7	13	46
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中寺廃寺跡	香川県仲多度郡 まんのう町 造田 3469-23他	市町村	遺跡番号	34度 7分 19秒	133度 55分 3秒	平21.4.20 ～ 平21.12.8	154.5 ㎡	確認 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
中寺廃寺跡	山林寺院	奈良 ～ 平安	掘立柱建物跡・ 溝・柱穴	須恵器・土師器・黒色土器・ 土師質土器・石製品・石帯・ 越州窯系青磁碗・軒丸瓦・銅 製錫杖・銅製三鈎杵			山岳仏教草創 期の山林寺院 における発掘 調査	
概 要								
<p>国史跡中寺廃寺跡(平成20年3月指定)は、香川県仲多度郡まんのう町造田にある大川山(標高1042.9m)の西尾根、標高700m付近に位置する18.8ヘクタールの古代山林寺院跡である。平成20年度までに、A地区では菜園場跡・仏堂跡・塔跡・大炊屋跡、B地区では仏堂もしくは割拝殿であった礎石建物跡・僧坊跡、C地区では石組遺構を確認している。A地区は仏堂と塔が計画的に配置された中樞伽藍が存在する中心的な地区、B地区は中寺において最も早い時期より大川山信仰に根ざす活動が始まった地区、C地区は平安時代における民間信仰の痕跡が残る地区と考えられる。</p> <p>本年度はA地区第12テラス及びB地区第3テラス西半の発掘調査を実施した。B地区第3テラス西半において僧坊跡を確認し、石帯・越州窯系青磁碗・軒丸瓦・銅製錫杖・銅製三鈎杵等が出土した。</p>								

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第7集

中 寺 廃 寺 跡
平成21年度

平成22年3月27日 発行

編集・発行 まんのう町教育委員会 中寺廃寺発掘調査室

〒766-0202

香川県仲多度郡まんのう町中通875番地 琴南公民館内

電話 (0877) 85-2221

印 刷 株式会社 成光社

